

37  
422



始



37

42

軍事研究會編  
分隊長之要圖



軍事研究會編

分隊長之要圖

東京忠誠堂出版部

大正  
4. 6. 24  
内交

緒言

一、時勢ノ進歩ト共ニ戰術ノ研究ハ益々複雑トナリ夜ヲ以テ日ニ繼クモ尙  
足ラサルヲ感ス隨ヒテ研究ノ手段方法宜シキヲ得サランカ其勞力ニ比シ  
其効果少ク貴重ノ時日ヲ徒費スルニ終ラン殊ニ始メテ戰術ヲ研究スル者  
ニ在リテハ要圖ナルモノハ如何ニ描キ現ハスヘキモノナルヤ想像タモ及  
ヒ難シ茲ニ於テカ本會曩ニ『要圖ノ書方』ナル一書ヲ公ニシ軍國ノ爲多  
少益スルコトアリシヲ覺エタリト雖元來該書ハ青年將校、見習士官諸氏  
ノ爲ニ編輯シタルモノナルヲ以テ記述稍々高尚ニ過キ初學者ノ爲ニハ尙  
一層簡單ナルモノヲ必要トシ下士、志願兵諸氏ニシテ本會ニ對シ其發行  
ヲ逼ラルル者少カラス依リテ茲ニ二三同志者相計リ其隊附中研究セシ要  
圖ヲ蒐集シ必要ノ改訂ヲ加ヘ此等諸氏カ要圖研究ノ範例トシテ發行スル

コトトセリ然レトモ戰術ハ固ヨリ一定不變ノモノニアラサレハ本書ヲ以テ定規ト爲スコトナク唯學習上ノ一例トシテ參考ニ供セラレンコトヲ望ム

二、圖紙ハ通信紙ノ様式ヲ採レリ而シテ報告文、研究事項ヲ詳述シ併セテ歩兵操典、陣中要務令ノ參照條項ヲ記入セルハ諸氏ノ研究ニ便センカ爲ノ微意ニ外ナラス故ニ演習若ハ實戰ニ於テ要圖ヲ以テ報告セントスル場合ハ固ヨリ別問題ナレトモ平時講堂若ハ野外ニ於テ問題トシテ課セラレタル場合ニハ必ス該條項ヲ參照セラルヘシ

### 目次

#### 要圖ノ書キ方

- 第一圖 下士哨長報告要圖
- 第二圖 斥候長(潜伏)報告要圖
- 第三圖 斥候長(守備、監視)報告要圖
- 第四圖 展望哨報告要圖
- 第五圖 斥候長(工事掩護、前哨配布掩護)報告要圖
- 第六圖 斥候長(陣地偵察)報告要圖
- 第七圖 外衛兵司令報告要圖
- 第八圖 斥候長(防禦戰鬥間)報告要圖
- 第九圖 斥候長(攻撃戰鬥間)報告要圖

- 第十圖 斥候長(側方警戒)報告要圖
- 第十一圖 小哨長報告要圖
- 第十二圖 獨立小隊攻擊戰闘要圖
- 第十三圖 道路偵察報告要圖
- 第十四圖 陣地偵察報告要圖
- 第十五圖 獨立中隊防禦戰闘要圖
- 第十六圖 前哨中隊配布要圖
- 第十七圖 大隊攻擊戰闘要圖
- 第十八圖 大隊防禦戰闘要圖

要圖ノ書キ方

◎一般要領

- 一、要圖ハ通報、報告等ノ煩雜ナル字句ヲ省キ或ハ其意ヲ補足シ得ルコト多シ(要務令、第十七九)
- 二、要圖ハ概ネ迅速ニ之ヲ製セサルヘカラス故ニ目的以外ニ屬スル不要ナル諸件ハ凡テ之ヲ省略シ單ニ必要ノ符號、事項並關係位置ヲ記載スルコトニ止ムルモノトス(要務令、第二十)
- 三、要圖ハ價值ハ簡約ニシテ時機ニ適應スルニ在リ故ニ必スシモ梯尺ニ據ルヲ要セス距離及尺度ノ如キハ數字ヲ註記スルヲ簡明トスルコトアリ(例ヘハ何流某點ニ註記シテ幅何米ト書シ又兩村落間ノ距離ヲ示スニ兩者ヲ線或ハ片括弧ニテ連結シ其側ニ何米ト記スルガ如シ)(要務

分隊長の要圖

令第三十)

- 四、要圖ハ自己ノ考ヲ十分ニ現シ且簡約ニシテ露營火ノ如キ光明不十分ナル場合ニ於テモ一目瞭然タラシメサルヘカラス
- 五、必要ナル部分即チ軍隊符號附近ノ地形ハ綿密ニ記シ其他ノ部分ハ一般ノ關係位置ヲ害セサルヲ度トシ成シ得ル限り省畧スヘシ是指揮官ハ通常地圖ヲ有スレハナリ
- 六、省略ト云ヒ簡約ト云フハ唯要圖ノ精度ヲ害セサル限り筆數ヲ減シテ明瞭ヲ主トスルニ在リ決シテ粗漏ノ意ニアラス
- 七、要圖ノ位置ハ圖紙ノ略々中央ナルヲ要ス
- 八、地物ノ運筆ハ稍々淡クシ軍隊符號ヲ濃クスヘシ
- 九、氏名ハ圖紙ノ右下ニ記スヘシ
- 十、方位、梯尺ハ圖紙ノ左上ニ記スヘシ但餘地ナキトキハ右上トスカラス
- 十一、要圖中苟モ圖示シ得ヘキモノハ決シテ之ヲ註記又ハ備考ト爲スヘシ

◎運筆ノ順序

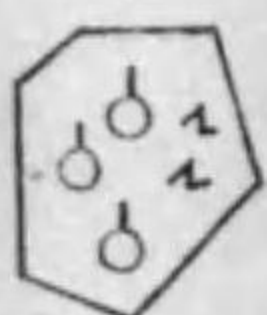
- 一、地圖ノ下ニ通信紙ヲ布キ骨筆若ハ硝子筆ヲ以テ地圖上ヨリ道路、河川、鐵道、首曲線、村落ノ外廓等主要ナル關係位置ヲ押寫スヘシ
- 二、次ニ色筆ヲ以テ所要ノ軍隊符號、備考等ヲ記入スヘシ
- 三、次ニ黒筆ヲ以テ鐵道、道路、河川等地圖ノ骨子タルヘキモノヲ記入スヘシ
- 四、次ニ曲線、村落、水田、森林等ノ註記ヲ爲ス此際散兵線ノ兩翼、行軍部隊ノ先頭後尾ノ附近地形ハ特ニ綿密ニ現示スヘシ
- 五、次ニ仕上ケヲ爲ス即チ題號(時間)、梯尺、方位、氏名等ヲ現示ス
- 六、若シ骨筆、硝子筆ヲ使用セサルトキハ兩脚器若ハ目測ヲ以テ直ニ第

◎色筆ノ使用

- 一、軍隊符號ハ誤ナク最モ正確ニ且著色濃厚ナルヘシ
- 二、地形描畫ノ爲軍隊符號ノ明瞭ヲ缺クヘキコトアラハ其部分ノ地形描畫ヲ省略スヘシ
- 三、水流、池、湖等ハ藍色筆ニテ淡ク畫クヘシ
- 四、指揮官ノ位置ハ要圖ノ價値ニ大關係アルヲ以テ必ス現示スヘシ
- 五、圖紙ノ範圍外ニ在ル斥候等ヲ示スニハ圖上ノ餘白ニ次ノ如ク書キ現スヲ可トス



乃木村





佐々木森

六、敵ノ位置、方向ハ大略狀況ヲ判斷シ記入スヘシ又想定ニ示サレタル

狀況ハ圖示スルヲ要ス

前哨配布ノ如キニ在リテハ矢ヲ以テ其方向ヲ示スモノトス

◎黒筆ノ使用

- 一、地形描畫ニ用フル符號ハ最新地形圖式ニ據ルヲ要セス現在使用セル地圖ノ符號ニテ十分ナリ
- 二、簡單明瞭ナラシムル爲鐵道ハ  村落ハ  ヲ以テ表ハスヘシ
- 三、地形描畫ヲ爲ス爲軍隊符號ト地形トヲ重ネ或ハ密接セシムヘカラス必ス若干ノ間隔ヲ存セシムヘシ即チ色筆ト黒筆トノ間ニ二、三密米ノ間隔アルヲ要ス
- 四、地物ノ記號ハ成ルヘク略スヘシ但軍隊符號ノ附近ハ粗漏ナラサルヲ要ス



五、地物ノ運筆ハ稍々薄クシ軍隊符號トノ區別ヲ明ナラシムヘシ

六、左ノ地區、地物ハ必ス記スヘシ

著名ナル神社、佛閣ノ名稱

市街、村落、山、河川ノ名稱

道路、鐵道ノ名稱例ヘハ東海道線、中國街道ノ如シ又之ニ通スル最近著名村落ノ名稱ヲ各端末ニ記スヘシ

◎作業ノ仕上

一、題號ハ圖紙ノ上方ニシテ凡ソ中央ニ大字ヲ以テ一目瞭然タル如ク記スヘシ

二、作業ニ示ス時期ハ無意味ニ記入スルコトナク狀況ヲ顧慮スルコト必要ナリ戰時ニ於ケル戰鬪ノ進捗ハ平時野外演習ノ如ク迅速ナラサルモノトス其位置ハ題號ノ下ニ之ト平行シ小字ヲ以テ記入ス

三、方位、梯尺ハ要圖ノ大サニ相當スルヲ要ス過小過大ハ共ニ圖ノ調和ヲ害シ隨ヒテ明瞭ヲ缺クニ至ル而シテ梯尺ハ方位ノ下方トス

四、氏名ノ記入ハ忘レ易キモノナリ注意ヲ要ス

示セラレタル地點ニ就ク(要、百六十八)

3 下士哨長ハ小哨長アリ受ケタル守則ヲ其交代兵ニ能ク記憶理解セシム(要、百六十八)

三、人員、任務ニ依リ差異アリト強モ最小限下士一、卒六人トス(要百六十六)

四、位置、要務令第七十七參照

五、下士哨ハ若干ノ抵抗カヲ有ス是レ複哨ト下士哨ト分ルル所ナリ

(第一圖)

發	十一月二日午後五時五分	發簡地	於大正橋
着	月 日 午 時 分	發簡者	某第二下士哨長
受簡者	某小哨長殿		

報告 第一號

- 一、未タ敵兵ヲ見ス
- 二、第一複哨及ヒ第三下士哨トハ動哨ヲ以テ連絡中ナリ
- 三、橋梁ノ阻絶ハ鐵線ヲ三條欄干ニ結束セルモノナリ
- 四、人員左ノ如シ、下士一、兵卒六名

研究事項

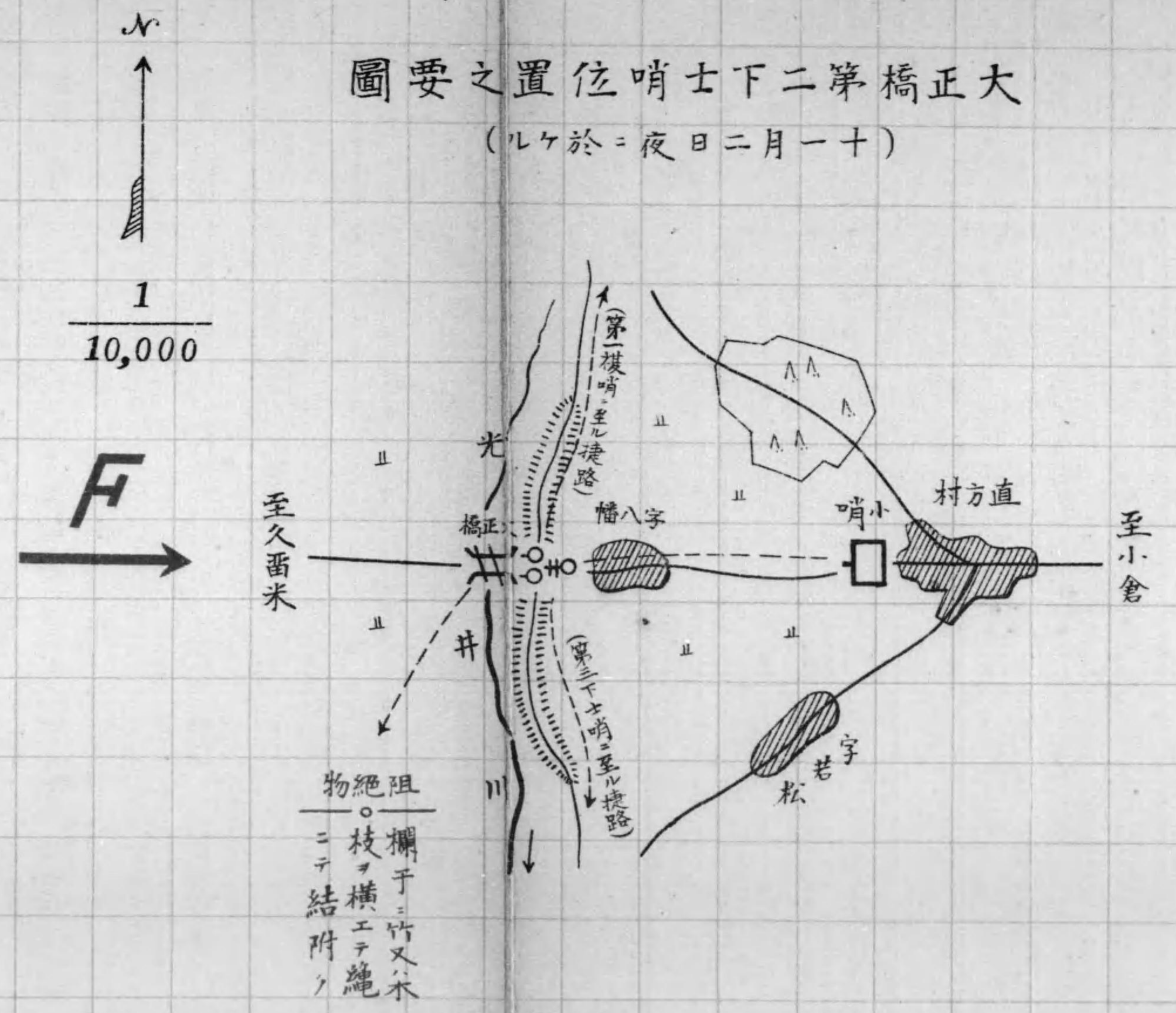
- 一、用所、特別ニ重要ナルカ或ハ交代ニ不便ナル地點(要、百六十六)
- 二、動作、複哨ト全ク同原則ナリ(要、百七十八)
  - 1 通常其二人ハ監視ニ任シ爾余ハ直接其近傍(低聲ヲ以テ監視兵ニ聞ユル所)ニ位置シテ成ルヘク遮蔽シアルヲ要ス但シ銃ハ必ス之ヲ手ニシアルヘシ(要、百六十六)
  - 2 下士哨長ハ斥候ノ要領ヲ以テ小哨ノ位置ヨリ捷路ニ依リ豫メ小哨長ヨリ指示セラレタル地點ニ就ク(要、百六十八)
  - 3 下士哨長ハ小哨長アリ受ケタル守則ヲ其交代兵ニ能ク記憶理解セシム(要、百六十八)
- 三、人員、任務ニ依リ差異アリト強モ最小限下士一、卒六人トス(要百六十六)
- 四、位置、要務令第百七十七參照
- 五、下士哨ハ若干ノ抵抗力ヲ有ス是レ複哨ト下士哨ト分ルル所ナリ

受	發
着	十一月一日午後六時十分
月	日午
日	時
午	分

發	發
地簡	於二子山

大正橋第二下哨士之位之要圖  
 (十一月二日之夜於之)

(第一圖)



發	十一月一日午後六時十分	發簡地	於二子山
着	月 日 午 時 分	發簡者	某潜伏斥候長
受簡者	某前哨中隊長殿		

報告 第二號

- 一、敵ニ就キテ獲ル所ナシ
- 二、前地ノ水田及二子山森林ハ單獨兵ノ外通過ヲ許サス
- 三、人員 下士一、兵卒十名

研究事項 (要務令第百八十三參照)

- 一、目的。敵兵ヲ捕獲スル目的ヲ以テ派遣セララル
- 二、位置。敵斥候ノ必ス通過スヘキ地點ニシテ蔭蔽ノ充分ナルヲ要ス即チ村端、鞍部、林縁、隘路口、橋梁、徒涉場等ノ如シ

三、動作。

- 1 監視長ハ勿論控兵ハ敵眼ニ遮蔽スルヲ(遮蔽物ヲ設ケルヲ要ナルコトアリ)
- 2 敵兵來ラハ監視兵ノ位置マテ近接セシムルカ或ハ通過セシメタル後不意ニ突出スヘシ即チ全ク伏兵ノ要領ナリ
- 3 敵襲ヲ知リシトキハ射撃ヲ以テ警報シ爾後接敵斥候トナリ逐次敵ノ位置ヲ中隊ニ報告ス
- 4 敵襲ノ報告ニ晝間ハ號旗、夜間ハ火光(ノロシ)ヲ併用スルヲ可トス
- 四、斥候。歸著ノ時刻ハ中隊長ヨリ示サル
- 五、服裝。通常輕裝トス

(第二圖)

者簡受	着	發
某前哨中隊長殿	月	十一月三日
	日午	午後六時卅分
者簡發	地簡發	
天神橋守備斥候長	於	天神橋

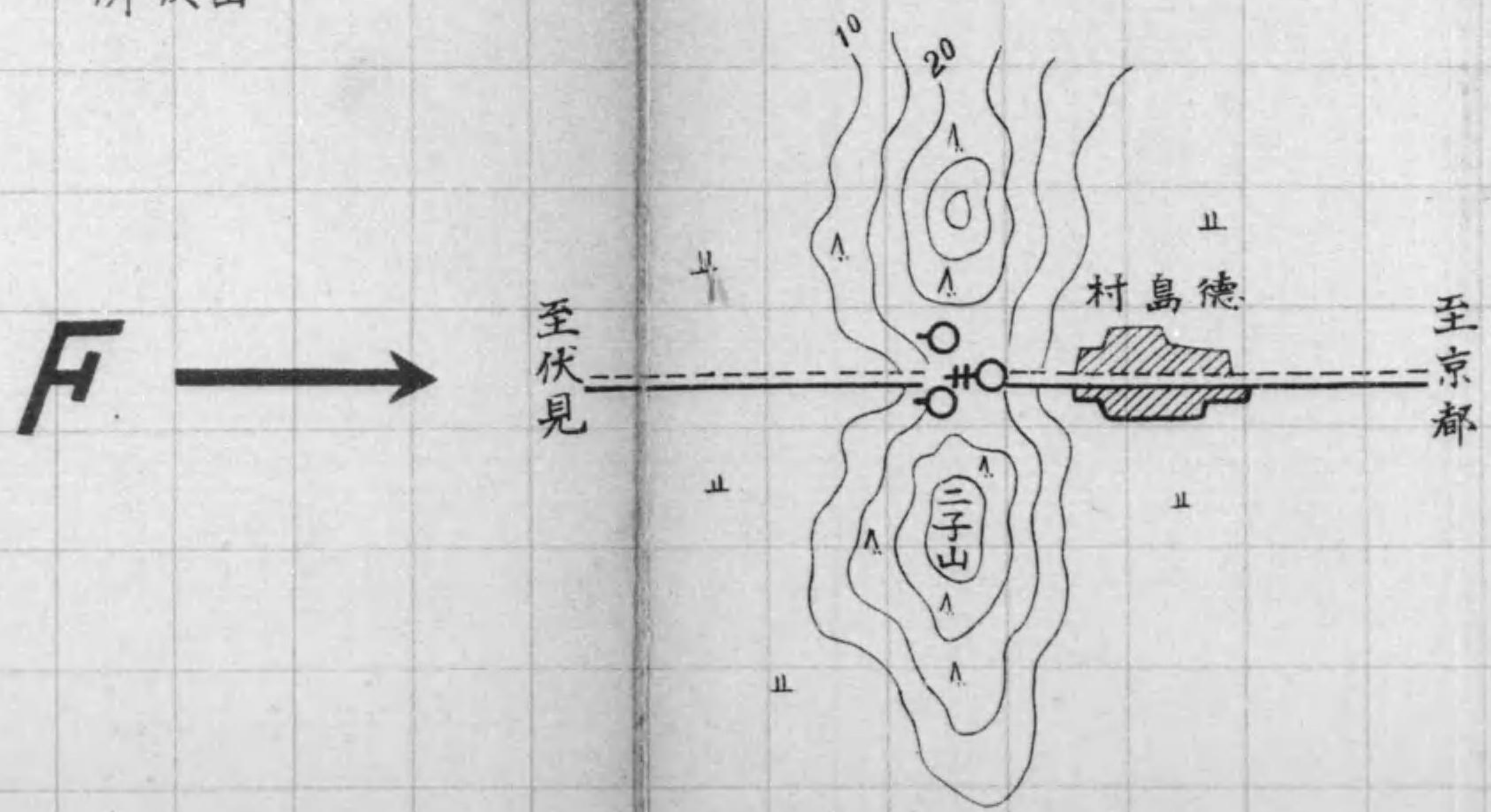
圖要置位(伏潜)候斥某近附山子二

(ルケ於=夜日一月一十)

考備  
 ○ 前哨線前出  
 ンレタル潜伏  
 斥候之一例



(第二圖)



考  
。サレタル潜伏  
斥候之一例

F

發 十一月三日午後六時卅分  
着 月 日午 時 分

發簡地 於 天 神 橋

受簡者

某前哨中隊長殿

發簡者

天神橋守備斥候長

報告 第一號

- 一、敵ニ就テ新報ヲ得ス
- 二、福知山ニ派遣セル斥候ハ未タ歸還セス
- 三、佐波川ハ諸兵ノ徒涉ヲ許サス、宇富田附近ノ水田ハ部隊ノ通過ヲ許ス
- 四、人員 下士二、兵卒十六名

研究事項

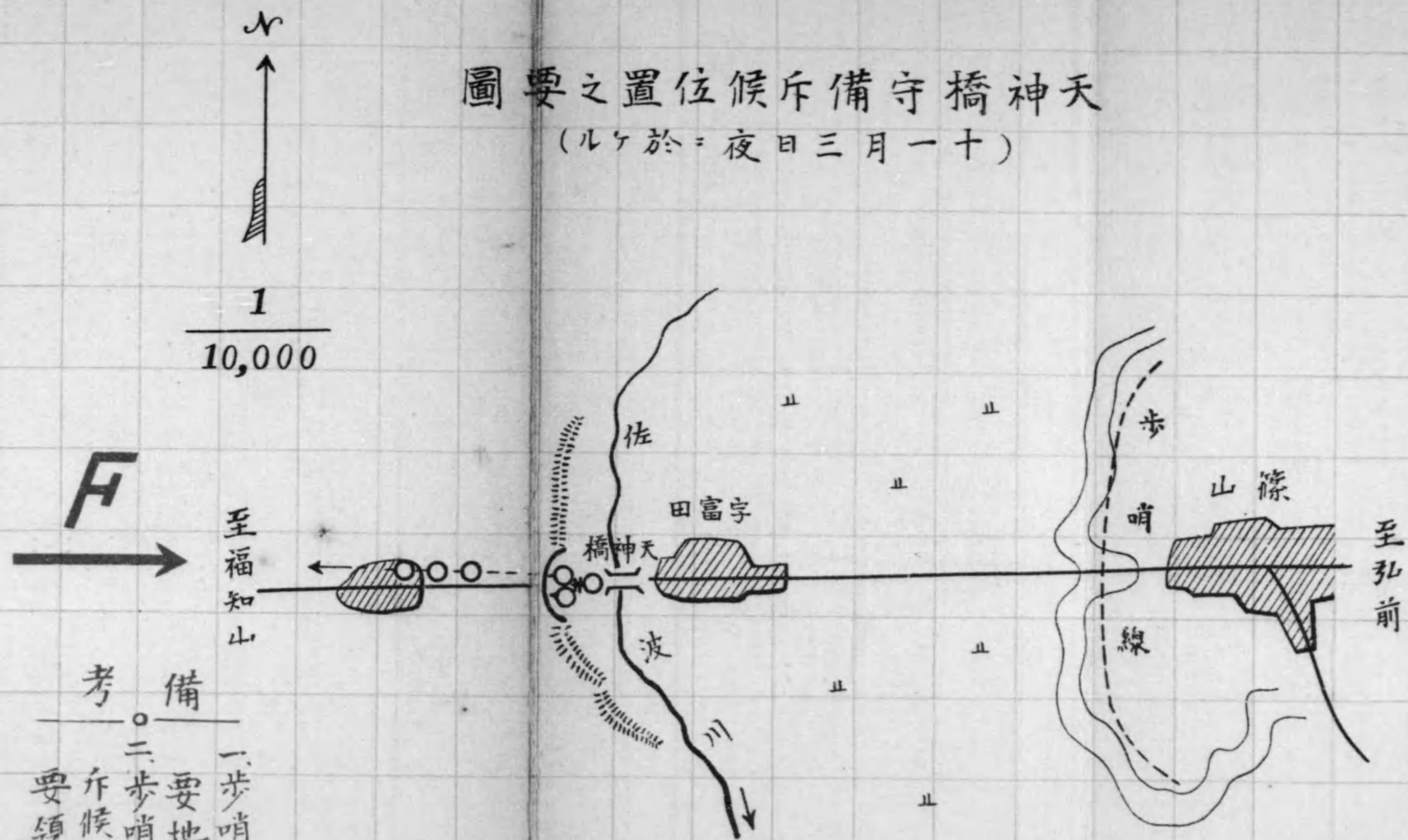
- 一、目的。步哨線前ノ地區ヲ監視スル爲メ某地點ニ駐止ス(要、百八十三)
- 二、位置。敵兵ノ通過スヘキ要點ニシテ抗戰ニ適スル所トス
- 三、動作。
  - 1 抗戰ヲナス性質ノモノナルヲ以テ工事ヲナス
  - 2 敵襲ヲ知リタルトキハ射撃ヲ以テ警報シ爾後接敵斥候トナリ逐次敵主力ノ位置ヲ中隊ニ報告(傳令、急射撃併用)ス
  - 3 敵襲ノ報告ハ晝間ハ號旗、夜間ハ火光(ノロシ)ヲ併用スルヲ可トス
  - 四、斥候ノ歸還時刻、服裝(通常輕裝)ハ中隊長ヨリ示サル
  - 五、步哨配置ヲ警戒スル斥候ハ略ホ是レト同要領ナリ(要百七十二)

者簡受	着	發
	月	月
	日午	日午
	時	時
	分	分
殿		
者簡發	地簡發	
	於	

圖要之置位候斥備守橋神天

(ルヶ於 = 夜日三月一十)

(第三圖)



考 備

一、步哨線前ニ出サレタル  
要地守備斥候之一例

二、步哨配置間ノ警戒  
斥候ニ略ホ是レト同  
要領(要百七十一)





考 備

一、歩哨線前ニ出サレタル  
要地守備斥候之例  
二、歩哨配置間、警告戒  
斥候モ略ホ是レト同  
要領(要百七十一)

發	月	日	時	分	發	地
着	月	日	時	分	簡	於
受	殿					簡
者						者

研 究 事 項

- 一、展望哨ハ攻撃、防禦、警戒行軍間及前哨ニ於テ屢々設クルモノトス
- 二、任務ハ敵ノ狀況ヲ監視シ偵察シ彼我中間ノ地形ヲ偵察シ併セテ友軍ノ狀況我カ斥候ノ動靜ヲ知ルニ在リ(要、百七十七)
- 三、位置ハ名稱ノ如ク展望スルモノナレハ展望ニ自由ナル地點即チ樹木、家屋上、獨立丘阜、高地端、堤防火 見梯等ハ良好ナル哨所ナリ(要、百七十七)
- 四、展望哨兵ノ人選  
歩哨、斥候ノ動作ニ習熟シ高キ物體ニ登ルモ眩暈セス且望遠鏡ノ使用法ニ通曉セル者ヲ可トス(要、百七十七)
- 五、展望哨ノ著眼點  
林縁、村端、凹地、橋梁、堤防、頂界線、道路等ハ特ニ注意スルヲ要ス又微候(砂塵音響等)モ亦良好ナル材料ナリ殊ニ我カ斥候ノ動作ノ著シク敏活ニナリタルトキハ敵情ニ變化アリタルトキナリ

(第四圖)

者簡受	着	發
某中隊長殿	月	十一月十五日
	日午	午前七時十分
	時分	

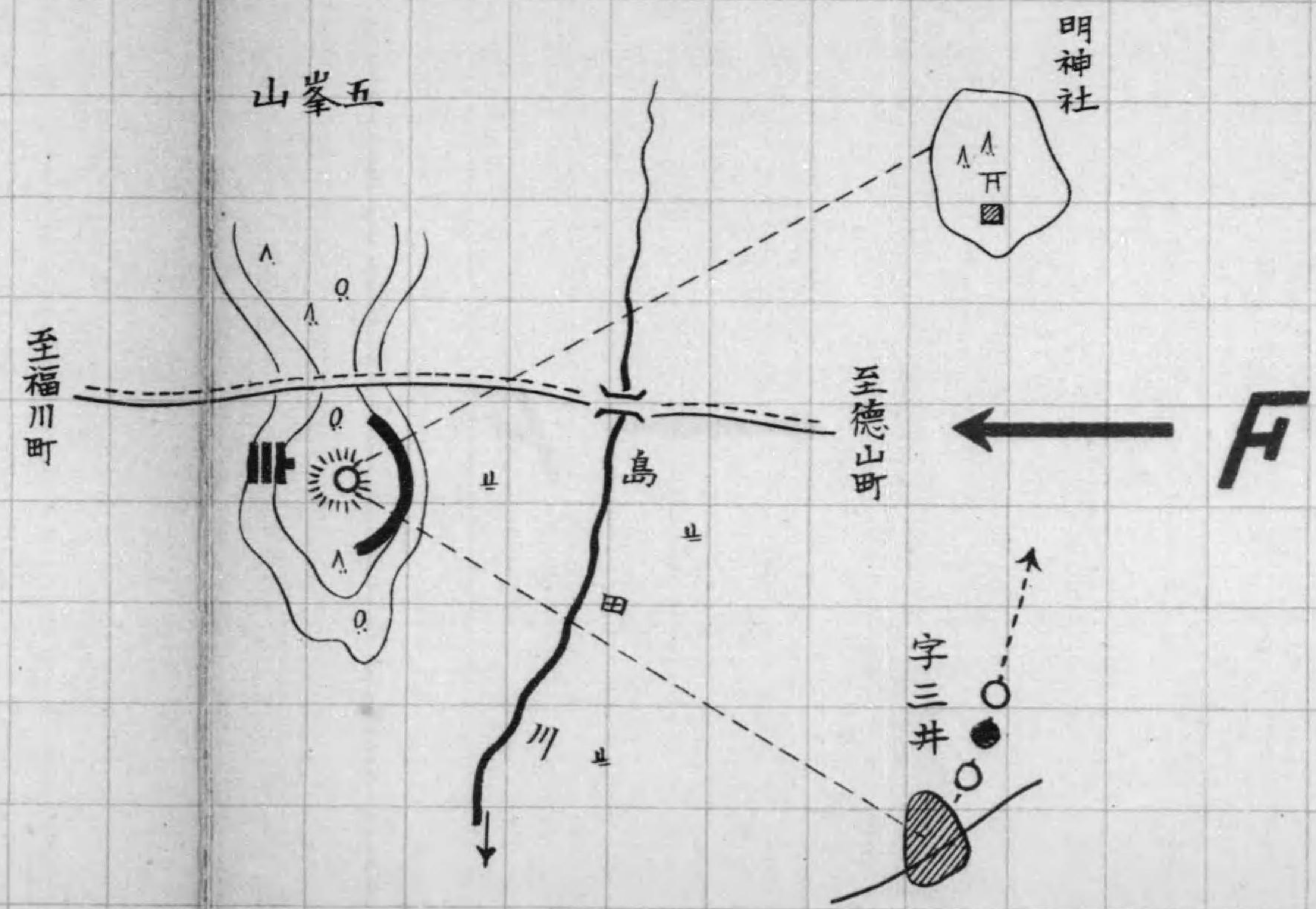
者簡發	地簡發
某斥候長	於金山

五峰山展望哨配置要圖  
 (十一月十三日午前二於ヶル)

(第四圖)



備考  
 ○ 展望哨ノ附號ニシテ  
 點線ハ其視界ヲ示ス



↑  
1  
10,00  
備考  
● 展望哨ノ附號ニシテ  
點線ハ其視界ヲ示ス

發	十一月十五日午前七時十分	發簡地	於金山
着	月 日 午 時 分	發簡者	某 斥 候 長
受簡者	某 中 隊 長 殿		

報告 第三號

- 一、敵ニ就テ得ル所ナシ
- 二、裏面要圖ノ如ク膝射散兵壕約十五米ノ構築ヲ終ル
- 三、金山附近ノ水田ハ單獨兵ノ外通過ヲ許サス
- 四、川端方向ニ出シタル斥候ハ未タ歸還セス
- 五、人員 將校(下士)一、兵卒二十名

研究事項

- 一、步兵操典二部第五十七參照
- 二、監視哨(下士若ハ上等兵)ヲ工事線ニ置キ他ハ其附近ノ遮蔽物ニ據リ休止ス但火急ノ際ハ最モ迅速ニ工事線ニ就キ得ル所ナルヲ要ス
- 三、手旗通信所ハ敵ヨリ發見セラレサル所ナラサルヘカラス
- 四、退路ノ研究ヲ要ス
- 五、退却ニ際シ橋梁等ノ處置(破壊ノ程度)ニ就テハ豫メ所屬隊長ノ許可ヲ受可シ
- 六、要レハ遞步哨ヲ設ク
- 七、監視兵ハ展望哨ノ要領ニ依リ動作ス、望遠鏡ヲ使用セシムレバ最モ妙ナリ
- 八、步哨配置ヲ警戒スル斥候ハ畧ホ是レト同要領ナリ(要、百七十一)

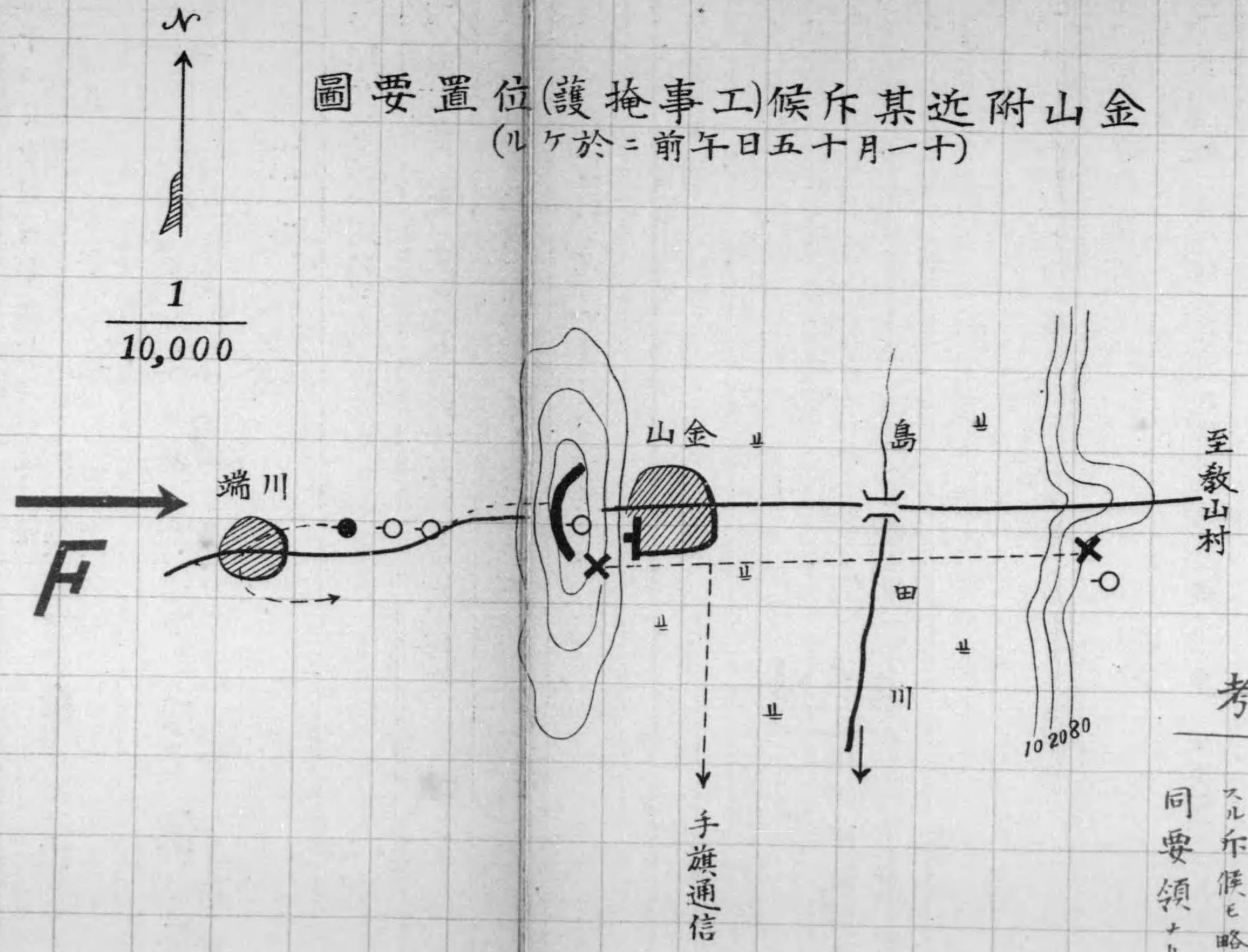
(第五圖)

者簡受	着	發
某大隊長殿	月	十一月八日
	日午	午前八時十分
	時	
	分	

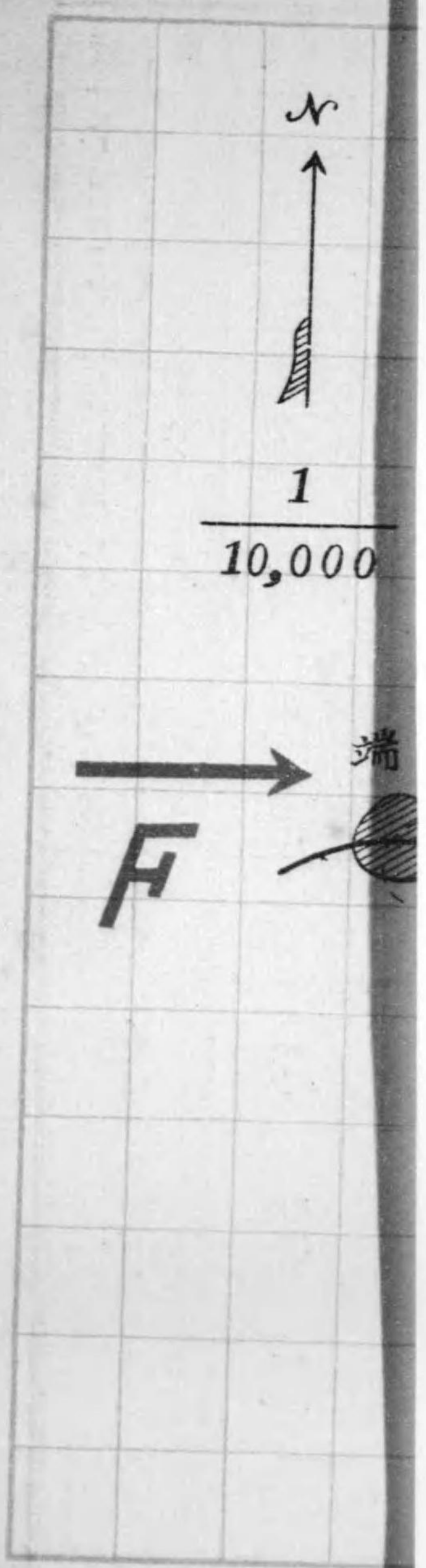
者簡發	地簡發
某斥候長	於
	淺
	江
	村

圖要置位(護掩事工)候斥某近附山金  
 (ルケ於=前午日五十月一十)

(第五圖)



考 備  
 一 工事掩護斥候ノ一例  
 二 歩哨配置ヲ警戒スル斥候ト略シ是レト  
 同要領ナリ



發	十一月八日午前八時十分
着	月 日 午 時 分
發簡地	於 淺 江 村

受簡者	某 大 隊 長 殿
發簡者	某 斥 候 長

報 告 第 二 號

- 一、淺江村ニ於テ敵步兵約五名ノ斥候ヲ驅逐セリ彼我ニ死傷者ナシ
  - 二、光立寺附近ノ敵陣地ノ狀況裏面要圖ノ如シ
  - 三、淺江村西方橋梁ハ中央部ニ於テ橋板約五米除去シアルモ單獨兵ノ通過ニ差支ナシ
  - 四、斥候ハ島田村方向ニ前進シ敵陣地ノ偵察ヲ續行セントス
- 研 究 事 項
- 一、此斥候ハ防禦陣地ヲ占領セル敵ニ對スル攻撃ノトキ敵陣地及前地ノ狀況ヲ知ル目的ヲ以テ前衛ヨリ出サルルモノトス
  - 步兵操典第二部第一「此局ニ當ル指揮官ハ速ニ所要ノ配備ヲ爲シテ敵ノ前進ヲ防止シ敵情及地形ヲ偵察シ……」ノ項參照
  - 又同第四十八「敵陣地ノ價值ハ攻撃計畫ニ多大ノ影響ヲ與フルモノトス故ニ其偵察ハ獨リ騎兵及前衛等ノ報告……」參照
  - 二、右ノ如ク指揮官ノ決心ヲ爲ス資料ニ供スルモノナルヲ以テ時々刻々獲タル狀況ヲ最モ迅速ニ報告スヘキモノトス
  - 三、要圖ニ爾後ノ前進方向ヲ記スコト最モ必要ナリ

(第 六 圖)

發者簡受

某舍營日直將校殿

着

十一月十日午後六時三十分

發者簡發

花岡町東端外衛兵司令

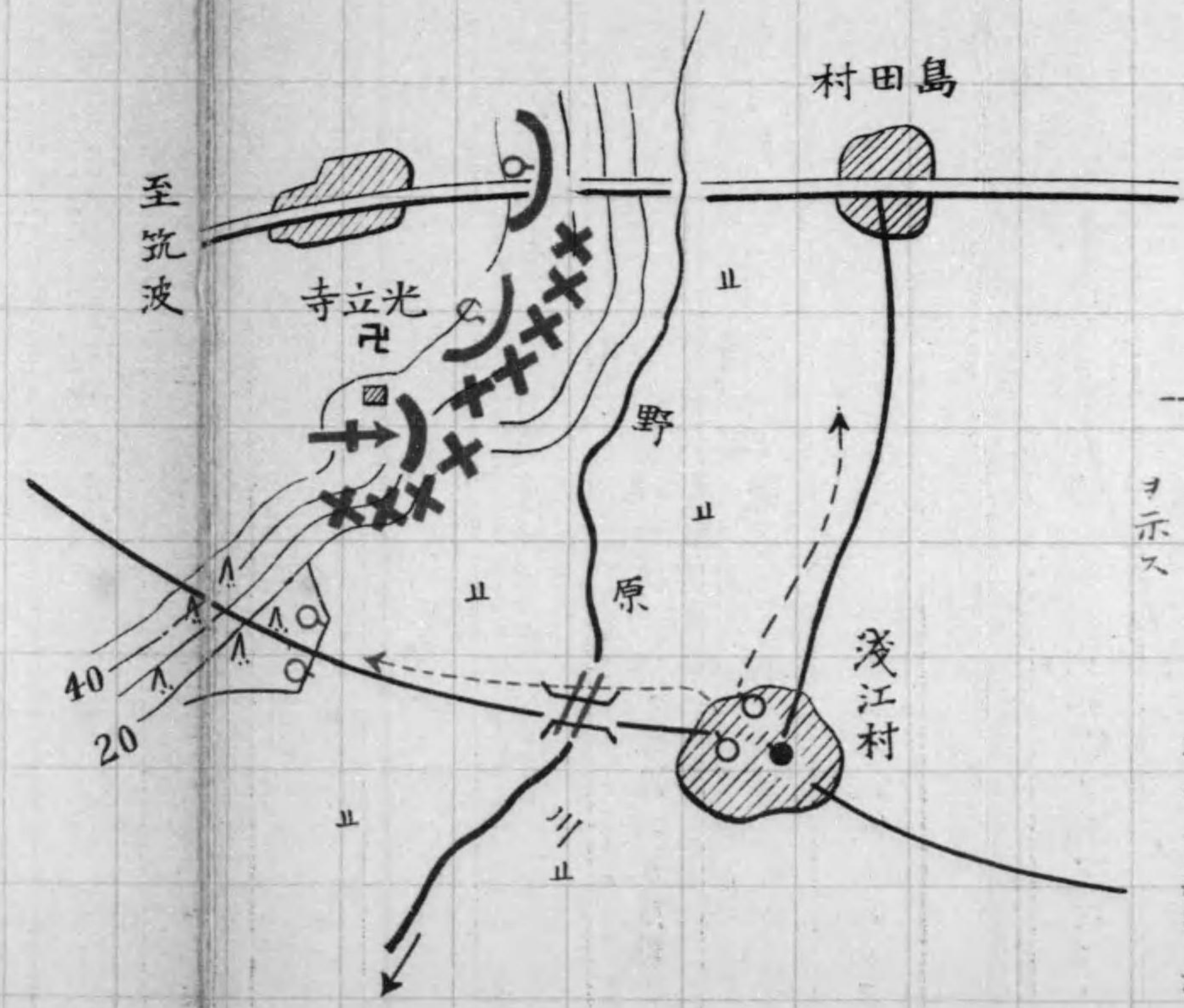
地簡發

於花岡町東端

光立寺附近敵陣地偵察報告

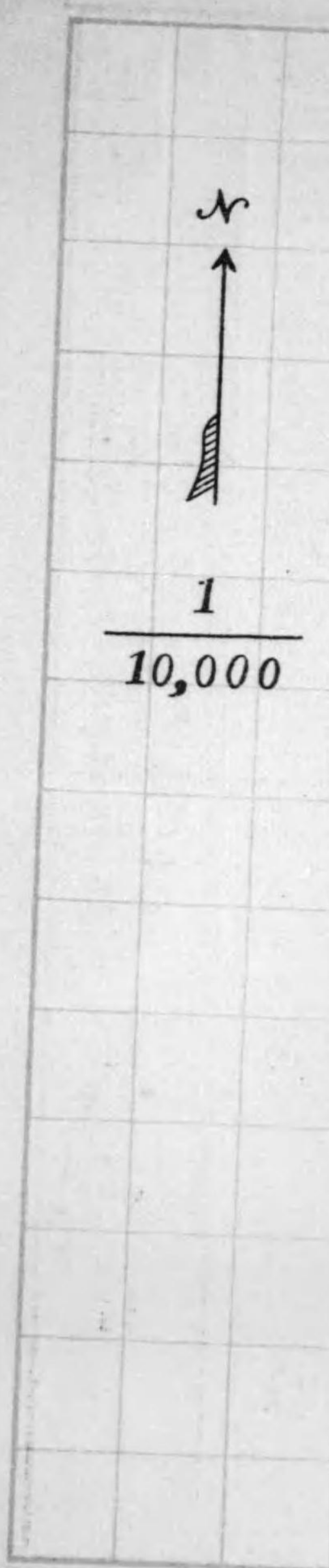
(十一月八日午前於ケレ)

(第六圖)



備考

- 一 斥候ヨリ出ツル矢ハ斥候ガ今ヨリ浅江村ヲ出發シ島田村ニ向ツテ示ス
- 二 赤色ノ敵ハ斥候ガ浅江村ヨリ其西方森林ニ退却セシテ示ス
- 三 赤色ノ敵ガ橋梁ニ阻絶物ヲ設ケタルヲ示ス



發	十一月十日午後六時三十分	發簡地	於花岡町東端
着	月 日 午 時 分	發簡者	花岡町東端外衛兵司令

受簡者 **某舍營日直將校殿** 發簡者

報告 第一號

- 一、午後六時二十分前哨本隊ト連絡セリ隣宿營地トハ連絡中
- 二、敵襲抗拒ノ位置ハ東端トス之カ爲生籬約二十米ヲ除去セリ
- 三、膝射散兵壕約三十米ヲ構築セリ
- 四、阻絶ハ車輛四輛ヲ重載シ車輪ヲ脱シ繩ヲ以テ彼此結ヒ著ケタリ但傳騎ノ通過ニハ差支ナキ様處置セリ

研究事項

- 一、任務、敵ノ近傍ニ在ルトキ舍營地直接警戒ナリ即チ敵ノ急襲ヲ警戒シ抗拒ス  
(要務令、二百七十一)
- 二、警急ニ際シテハ死守以テ敵襲ヲ防止セサルヘカラサルヲ以テ抗戰ノ準備アルヲ要ス又危急ノ場合ト認ムルトキハ獨斷號音ヲ吹奏シテ警報スヘシ
- 三、土民ノ敵ニ内應シ又ハ間諜出入ノ虞アルトキハ特ニ注意シ警戒ヲ嚴ニセサルヘカラス
- 四、動作ハ通常小哨勤務ノ規定ニ據ル若シ一複哨ナルトキハ下士哨ノ要領ニ從フ  
(要、二百七十一)
- 五、兵力ハ危殆ノ度ト地形ニ應シテ定マルモノトス(要、二百七十一)
- 六、位置。宿營地ノ出口及外圍或ハ前方ニアル要點
- 七、警急集合場附近ニアル外衛兵ハ任務ヲ達成スル爲メ集合場ノ外方ニ位置シ集合ヲ掩護ス

(第七圖)

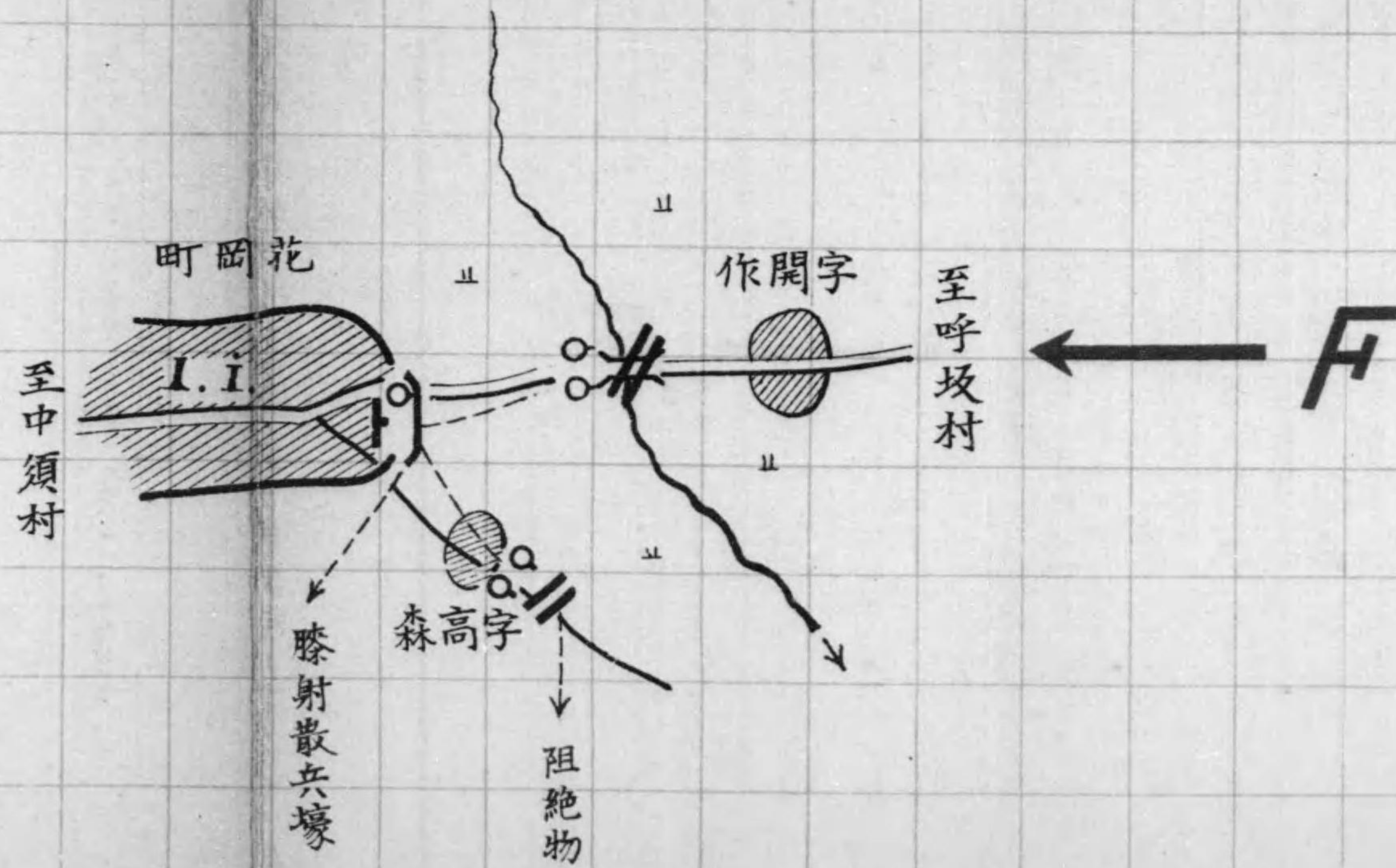
者簡受	着	發
某大隊長殿	月	十一月八日
	日午	午前
	時	十時
	分	廿分

者簡發	地簡發
某斥候長	於
	天神山

圖要置配兵衛外端東町岡花

(ルケ於 = 夜日十月一十)

(第七圖)





發	十一月八日午前十時廿分
着	月 日 午 時 分

發簡地	於 天 神 山
發簡者	某 斥 候 長

報告 第二號

某大隊長殿

- 一、字室積ヨリ西庄ニ至ル間ヲ射撃シ得ル如ク膝射散兵壕ヲ構築セリ
- 二、午前十時十五分敵歩兵約七十名字室積ニ入り其斥候ハ村端ニ在リ
- 三、斥候ハ此敵ヲ飽ク迄拒止セントス

研究 事項

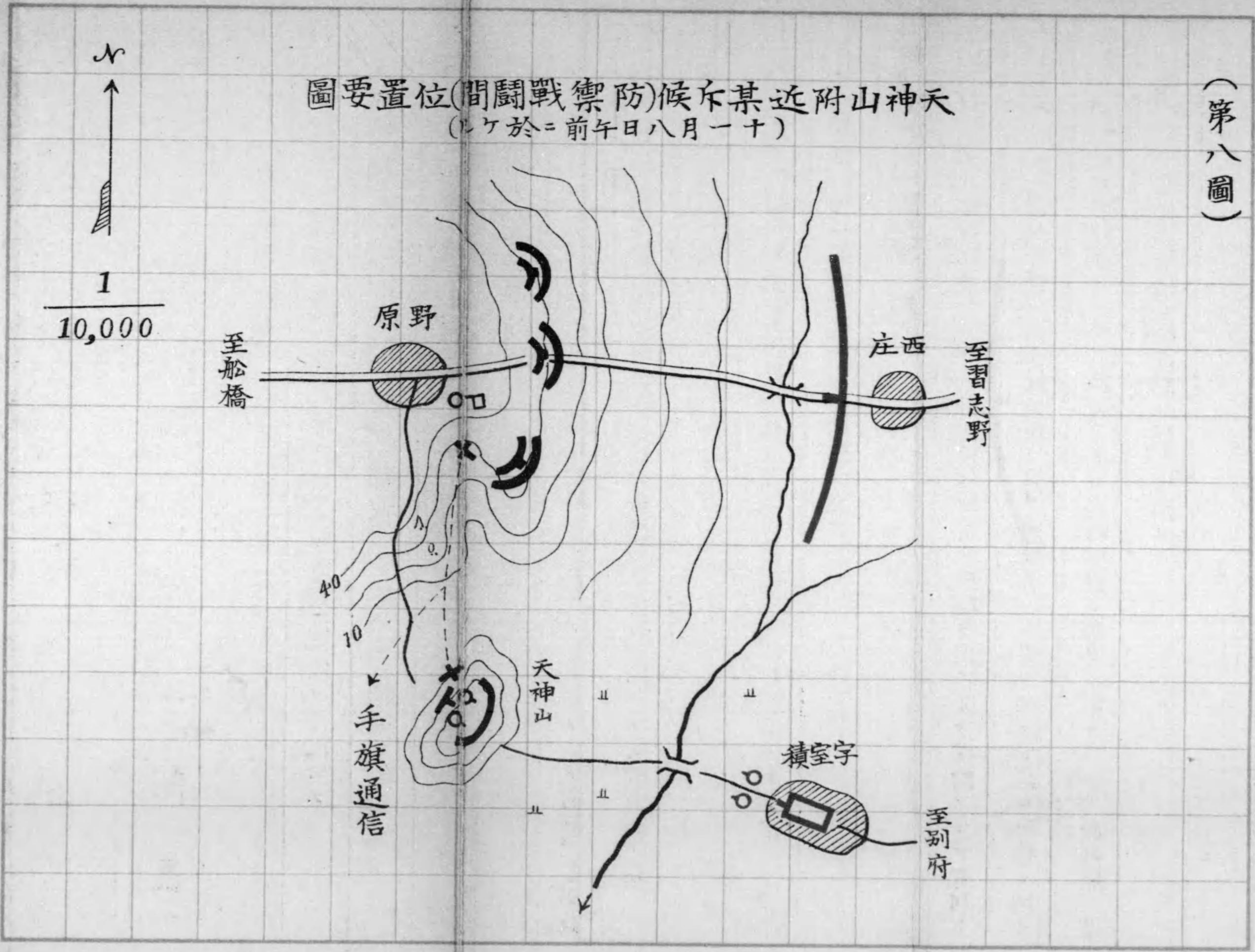
- 一、此斥候ハ防禦戰鬥間ノ側翼警戒ノ爲出サレタルモノナルヲ以テ射界、視界共ニ廣濶ニシテ防禦ニ適シ且本軍トノ連絡容易ナル所ニ位置シ射撃設備ヲ爲スヘシ
- 二、斥候ノ前面及本陣地ヨリ見エ難キ敵情ハ迅速ニ本隊指揮官ニ報告スルヲ要ス
- 三、手旗通信所ハ敵ヨリ蔭蔽セル地點ニ設クヘシ
- 四、要スレハ遞歩哨ヲ設クヘシ
- 五、大隊カ攻勢ニ轉セシトキハ現在地ニアリテ射撃ヲ以テ是ヲ援助スルヲ有利トスルトキハ全力ヲ盡シテ大隊前面ノ敵ヲ射撃スヘシ若シ大隊ト共ニ攻勢ニ轉スルヲ至當ト判斷スルトキハ陣地ヲ捨テ決然前面ノ敵ヲ攻撃スヘシ、此判斷ノ基礎ハ大隊方面ノ彼我ノ情況並ニ地形ニ關ス

(第八圖)

者簡受	着	發
	月	月
	日	日
	午	午
	時	時
	分	分
殿	地簡發	
者簡發	於	

圖要置位(間鬪戰禦防)候斥某近附山神天  
 (ルケ於=前午日八月一十)

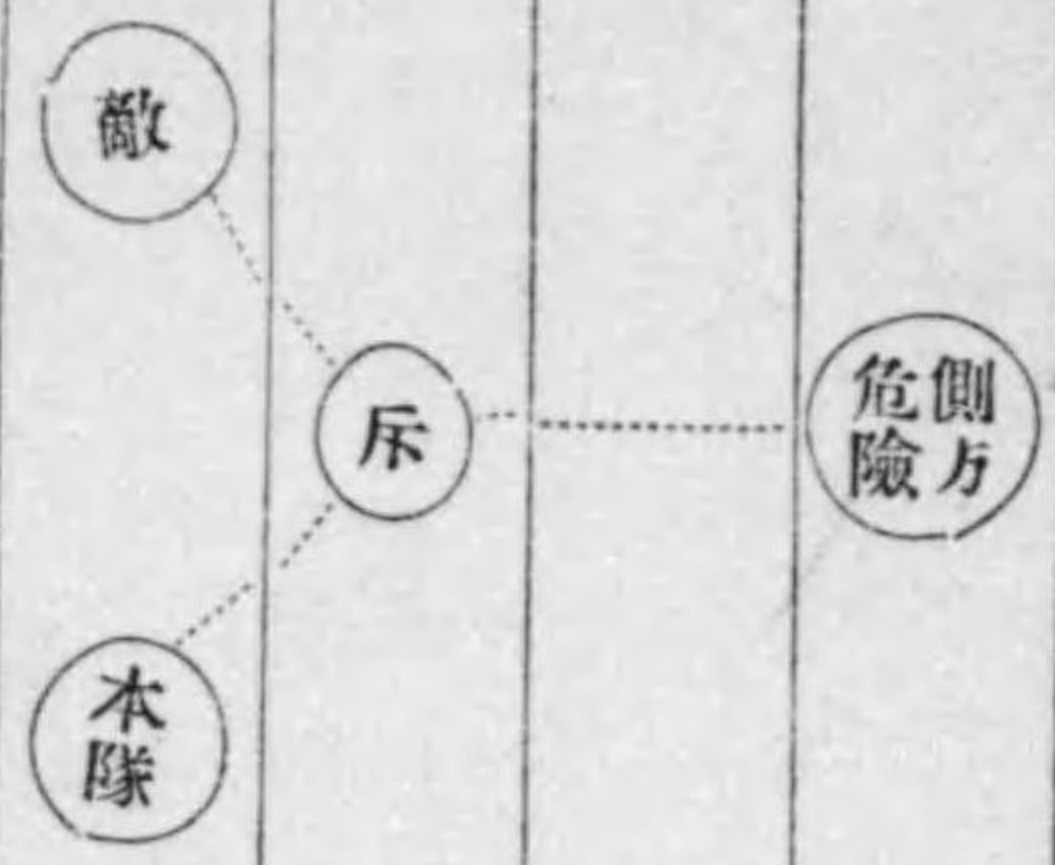
(第八圖)



發	月	日	時	分	發	地
着	月	日	時	分	簡	於
受簡者	殿				發簡者	

### 研究事項

- 一、任務、第一線ノ側翼ヲ警戒スルモノナリ
- 二、位置、第一線ヨリノ距離ハ敵トノ距離、地形ニ依リ變化スレトモ要ハ雨傘ノ柄ノ長サト同一ノ性質ヲ有ス遠キニ失スヘカラス近キニ過クヘカラス大略ノ基準ハ新ラシキ情報ヲ得テ報告シ隊長カ新處置ヲ爲シ得ル時間ト場所トヲ得セシムルニ在リ



- 三、斥候ノ一進一止ハ本隊ノ運動ニ從フモノナレトモ同時ニ同一運動ヲ爲ス謂ニアラヌ、斥候ノ運動ハ自由ナリ然レトモ常ニ本隊ノ斜側翼ニ在ルヲ可トス
- 四、報告ハ記號或ハ遞歩哨ニテ行フヘシ
- 五、敵ノ奇襲ニ對シテハ報告スルト共ニ極力抗拒スヘシ
- 六、主ナル任務ハ戦闘間不意ノ急襲ヲ豫知スルニ在レトモ側方ヨリ我正面部隊ノ射彈ノ觀測及地形ノ偵察殊ニ戦闘初期ニ於テハ敵線ノ一翼ヲ機ヲ失セズ報告スルヲ要ス

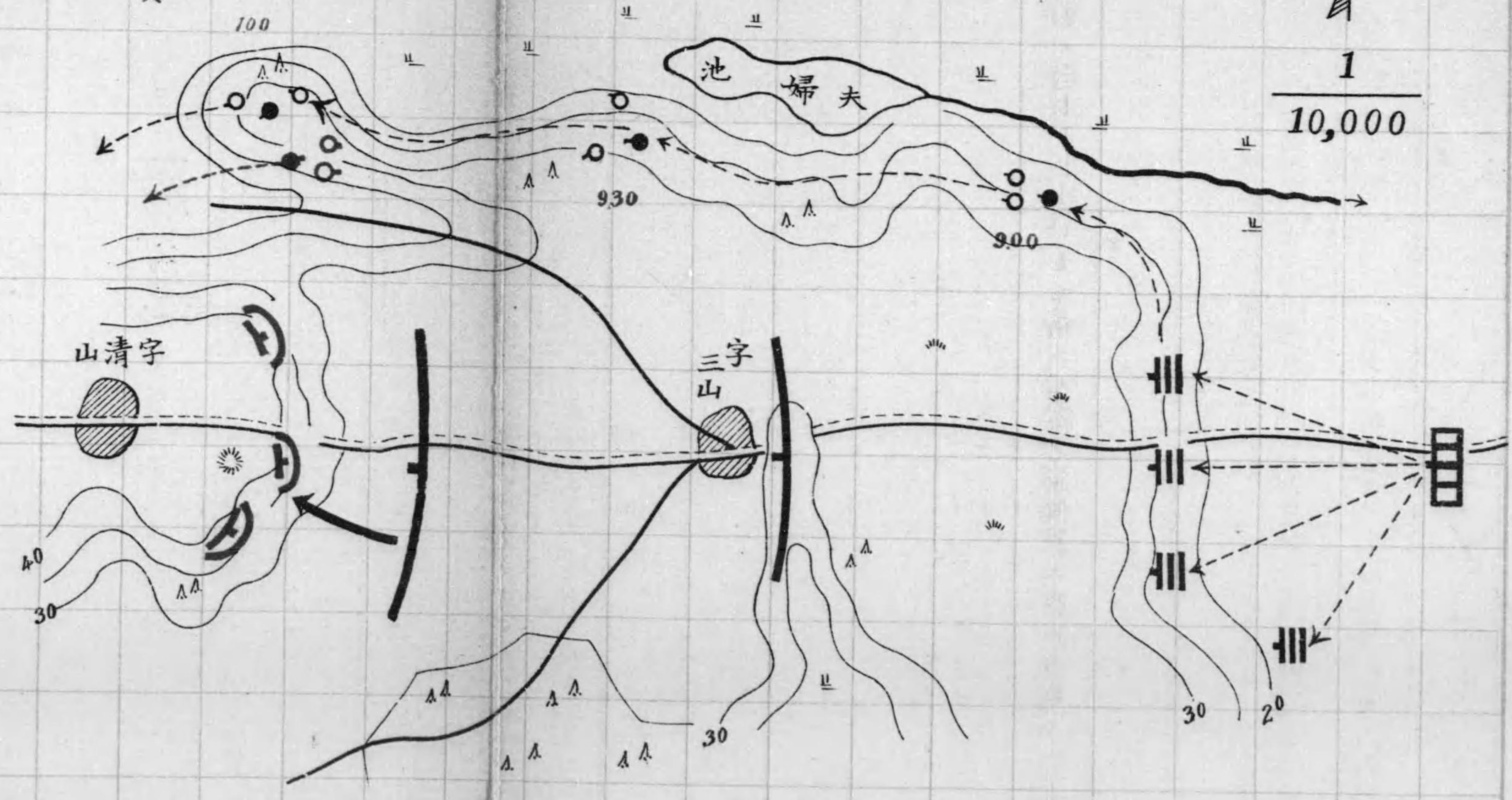
(第九圖)

戰鬪間(擊攻)候位置要圖

(十一月十三日午前於ル)

(第九圖)

備考  
朱字、時間ヲ示ス



發者簡	着	發
某大隊長殿	月	十一月三日
	日午	午前八時三十分
	時	
	分	

發者簡	發地簡
某斥候長	於安達原

發 十一月三日午前八時三十分  
着 月 日午 時 分

發簡地 於安達原

受簡者 某大隊長殿

發簡者 某斥候長

報告 第三號

- 一、字畑東側凹地ニ敵歩兵約二十名集合シアルヲ知リ斥候ハ之ヲ擊攘シ前任務ヲ續行セントス其處置裏面要圖ノ如シ
- 二、字八海附近ニ在ル將校斥候ト連絡セリ

研究事項

- 一、田布施附近ニ陣地ヲ占領シアル敵ヲ攻撃スル目的ヲ以テ本隊ハ波ノ池南方約千米ノ畑地ニ集合中ナリ、斥候ハ敵陣地偵察ノ目的ヲ以テ岩田村ヨリ分進シ田布施村ニ向ヒ前進中要圖ノ如キ敵情ヲ知リ之ヲ擊攘スルニ決シタルヲ以テ大隊長ニ敵情ト自己ノ決心ト處置トヲ報告スルモノナリ

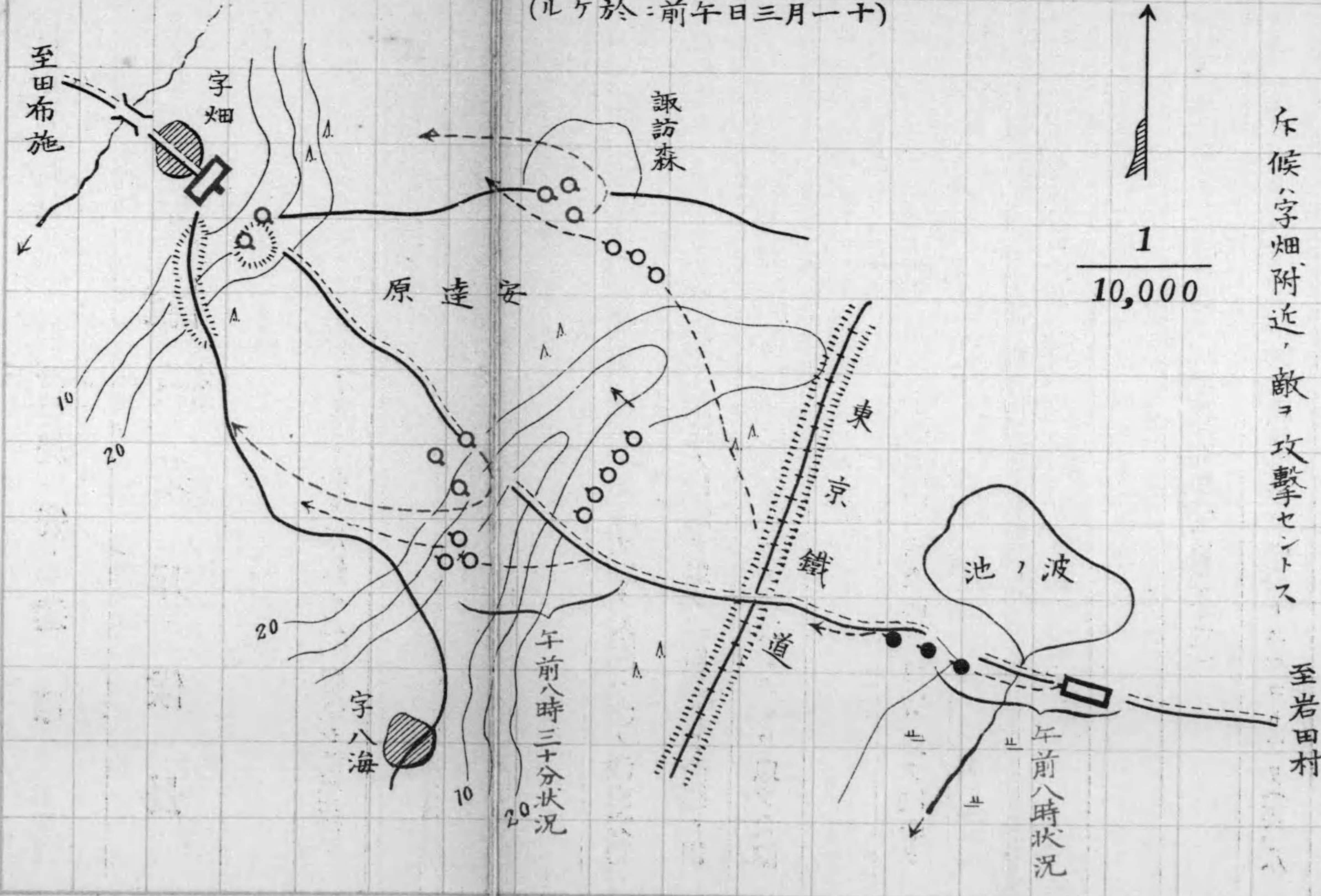
記スルモノトス

又擊攘後ノ考モ併セテ報告シ置クヲ可トス

- 三、報告ノ時機(要務令、第二十)
- 四、自己ノ状態、及爾後ノ企圖ニ關スル事項(要務令、第二十三)
- 五、視察ノ目的ヲ達セシカ爲メ敵ノ斥候ヲ驅逐スルヲ必要トスルコトアリ(要、八十三)

圖要鬪戰候斥某近附原達安

(ルケ於：前午日三月一十)



(第十圖)

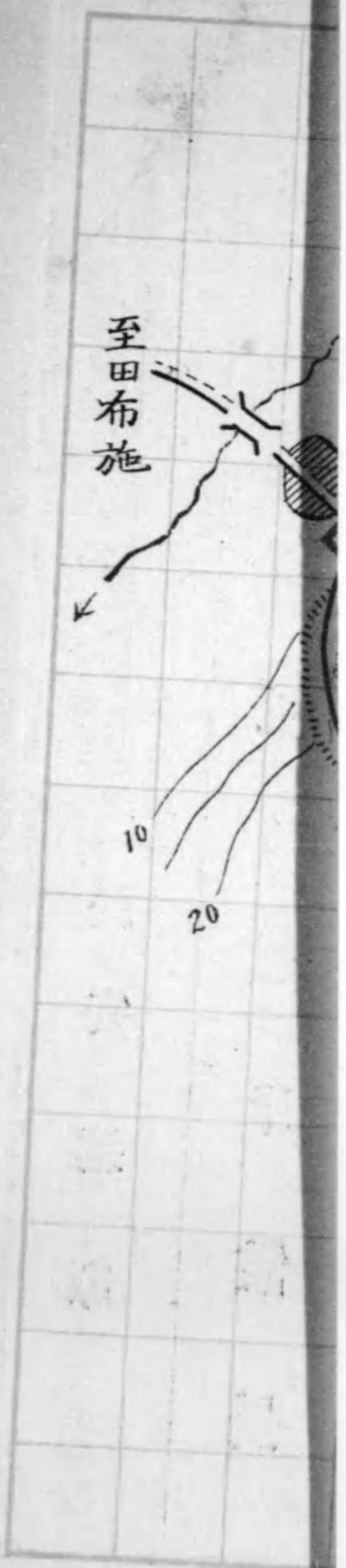
午前八時ニ於ケル斥候長、決心  
斥候字畑附近、敵ヲ攻撃セントス

至岩田村



發者簡	着	發
某前哨中隊長殿	十一月八日午後六時四十分	
發者簡	地簡發	
某第一小哨長	於前浴	

至田布施



發 十一月八日午後六時四十分  
着 月 日 午 時 分

發簡地 於 前 浴

受簡者 某前哨中隊長殿

發簡者 某第一小哨長

報告 第一號

- 一、敵ニ就キテ新報ヲ得ス
- 二、午後六時三十分裏面要圖ノ如ク配布終ル
- 三、第一複哨ヨリ光井村方向ニ出シタル斥候ハ未タ歸還セス
- 四、前面ノ水田ハ單獨兵ト雖通過ヲ許サス
- 五、阻絶ハ車輛三輛ノ車輪ヲ脱シ路上ニ積載シ鐵線ヲ以テ彼此結ヒ著ケタリ
- 六、人員、將校一、下士六、兵卒六十名

研究事項

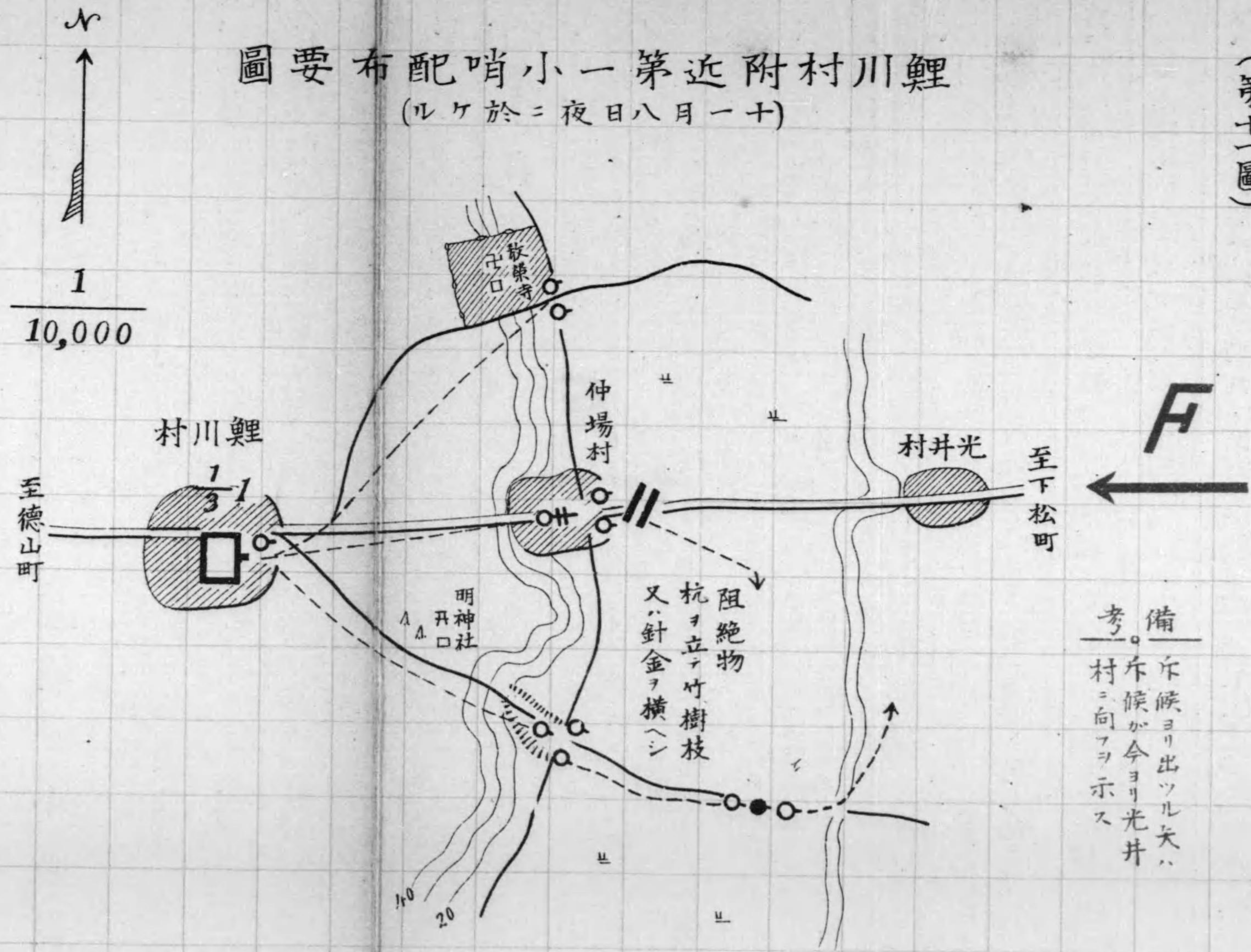
- 一、要務令第六十二乃至第八十四參照
- 二、要圖ハ通常古參下士調製ス故ニ小哨長特別守則附與ノ爲巡視中ニ概略ノ記入ヲ爲シ歸還後歩哨位置ノ記入ヲ爲シ直ニ提出シ得サルヘカラス
- 三、阻絶物ノ位置ハ下士哨前三十米附近ヲ適當トス阻絶物ニ對シテハ必ス射擊設備ヲ爲スヘシ又我カ斥候等ノ爲單獨兵ハ所要ニ應シ通過シ得ル如ク設備スヘシ
- 四、小哨長ハ成ルヘク速ニ單簡ナル要圖ヲ以テ其配置ヲ中隊長ニ報告シ且ツ相隣スル小哨ト連絡スヘシ(要、百七十四)
- 五、歩哨配置ノ間ハ前方ニ斥候ヲ派遣シ警戒ス(要、百七十一)

(第十一圖)

者簡受	着	發
	月	月
	日	日
	午	午
	時	時
	分	分
殿	地簡發	於
者簡發		

鯉川村附近第一小哨配布要圖  
 (十一月八日夜於之)

(第十一圖)



備考  
 斥候ヨリ出ツル矢ハ  
 斥候ガ今ヨリ光井  
 村ニ向テ示ス



者簡受	發	着
	月	月
	日	日
	時	時
	分	分
	者簡發	地簡發
		於

殿

研究事項

一、歩兵一小隊ヲ以テ敵陣地偵察ノ爲前衛ヨリ先遣セラレタルニ途中敵歩兵約五十名陣地ヲ占領セルニ會シ之ヲ攻撃セルニ決セル狀況ナリ

二、歩兵一小隊位ノ兵力ニテハ唯一意直進アルノミ實兵指揮等ニテ甚シク迂回スル者アルハ誤レリ

三、左ノ各項ヲ參照スヘシ

- (一) 横隊 歩兵操典第二部第三十四
- (二) 散開時期 歩兵操典(第一部第九、第二部第三十四)
- (三) 射撃開始時期 歩兵操典第一部第四十九
- (四) 突撃ノ時期 歩兵操典(第一部第六十二、第六十三、第六十四、第二部第四十一、第四十二)
- (五) 追撃 歩兵操典(第一部第六十四、第二部第七十四、第七十六)

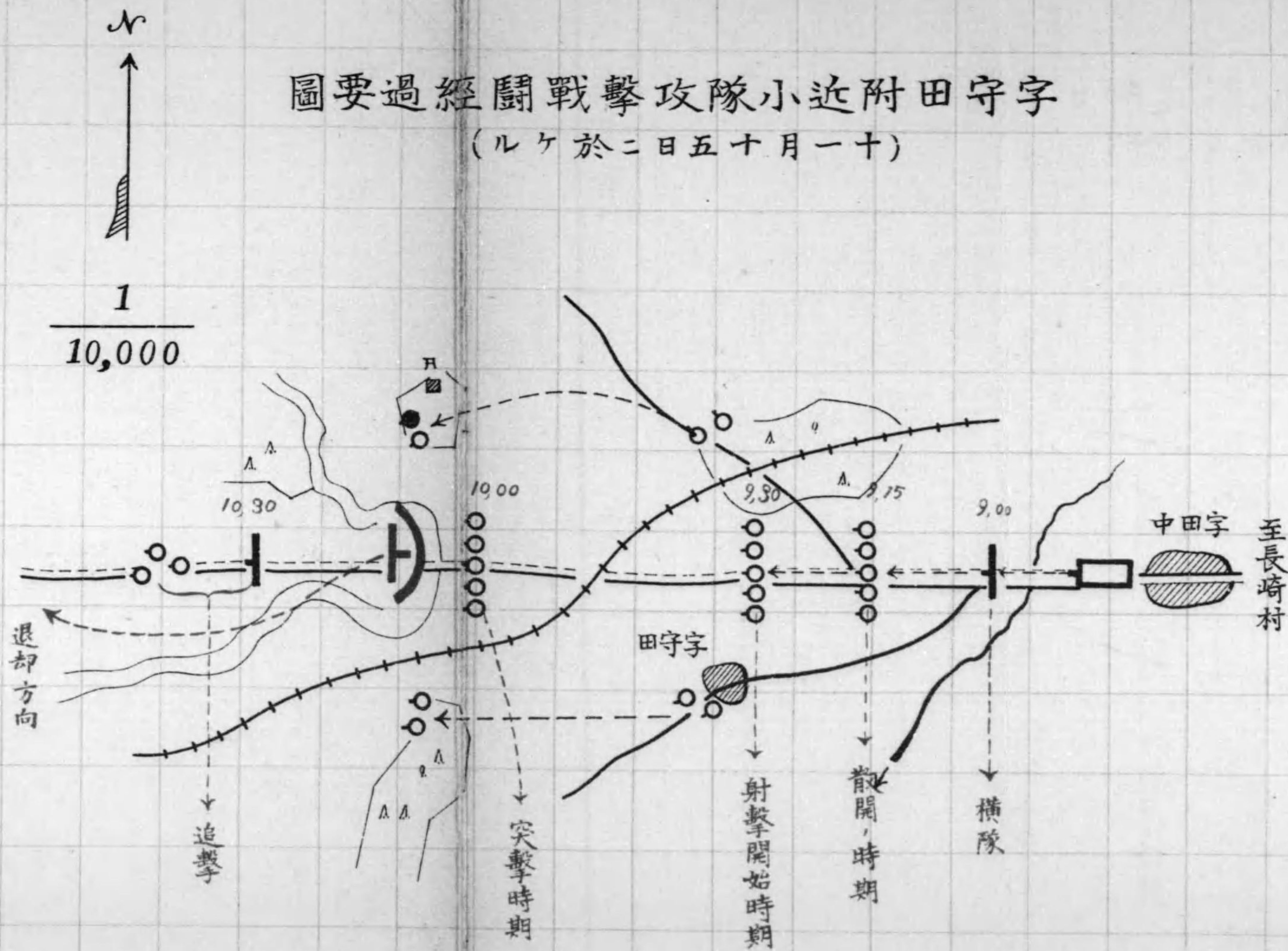
(第十二圖)

受	着	發
月	月	月
日	日	日
午	午	午
時	時	時
分	分	分
發	地簡發	於

圖要過經鬪戰擊攻隊小近附田守字

(ルケ於二日五十月一十)

(第十二圖)



退却方向

受簡者	發	着	發
	月	月	日
		日	時
		時	分
		分	
發簡者	發	地	於

### 殿

### 研究事項

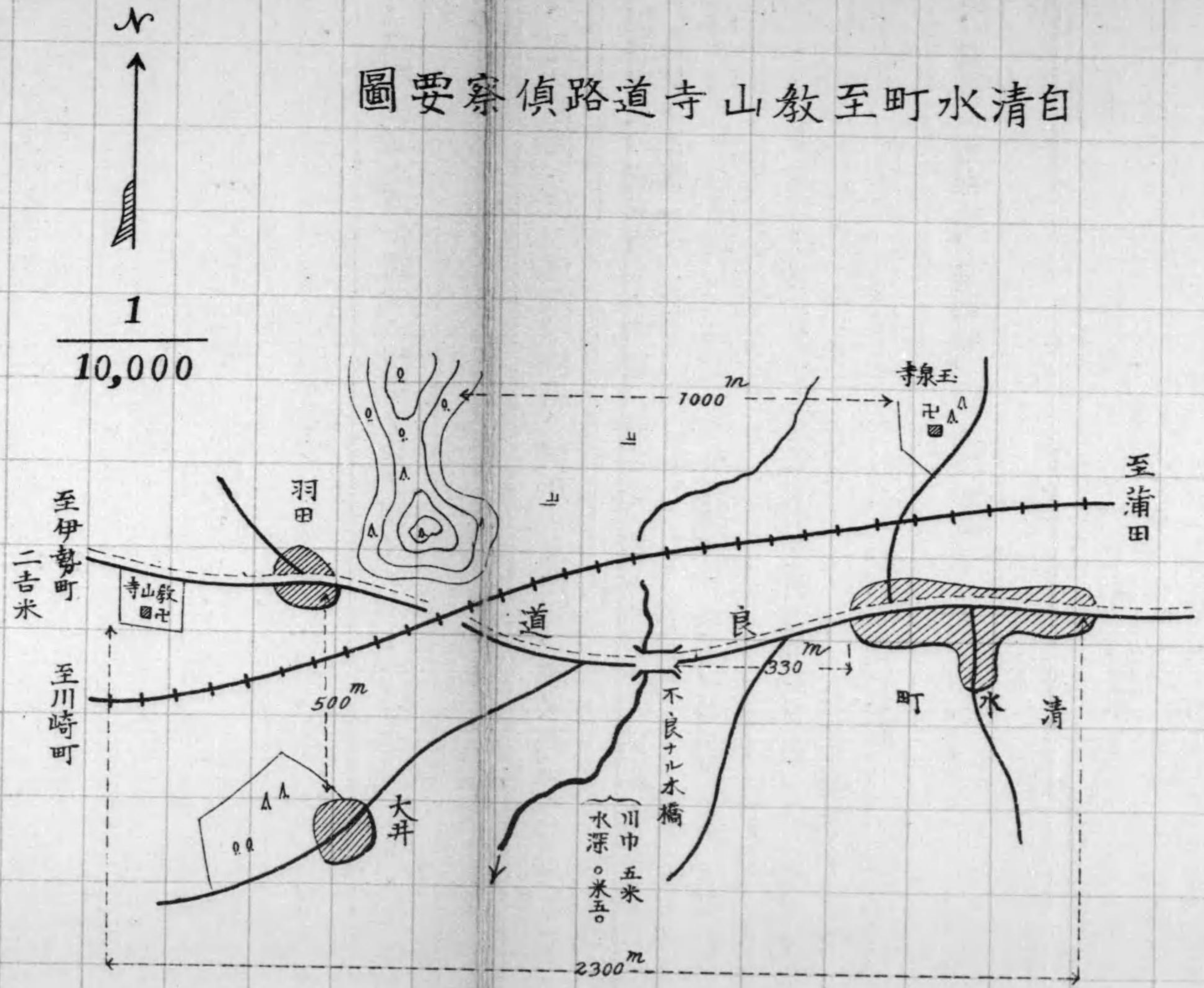
- 一、圖ノ精粗ハ費シタル時間ノ多少ニ比例スルヲ要ス
- 二、時機切迫ノ場合僅少ノ時間ヲ以テ調製スルトキハ必スシモ梯尺ニ據ルヲ要セス
- 三、先ツ原圖ニ依リ道路、鐵道、河川ノ屈曲部、交叉點或ハ橋梁ノ位置、麓線、防界線又ハ獨立高地ノ巔頂、村落等ノ如キ重要ナル諸點ニ就キ彼此ノ距離及方向ヲ測リ之ヲ圖紙上ニ決定シ然ル後原圖ヲ參照シ少許ノ屈曲ニ介意スルコトナク一般ノ狀態ヲ目撃シツツ其關係諸點ヲ連絡スヘシ
- 四、必要ナル距離、幅員等ハ米突數又ハ步數ヲ以テ記入スハキモノトス
- 五、圖紙ハ方眼紙、通信紙、時トシテ手簿ノ紙片ヲ用ヒテ可ナリ

(第十三圖)

發	着	受
月	月	月
日	日	日
午	午	午
時	時	時
分	分	分
發	地簡發	於

圖要察偵路道寺山教至町水清自

(第十三圖)



考。備

- 一、道路ハ歩測ニテ距離ヲ求ム然レモ急ニ要スルキハ目測ニテモ可ナリ
  - 二、著名ナル地物ニ至ル距離ハ目測ヲ常トス
  - 三、道路、村落、森林等ハ最モ簡單ナル方法ニテ現圖スハ即チ此ノ要圖ノ如キ方法ニテ可ナリ
- 至馬入村 三吉米



受 着 發

月 月

日 日  
午 午

時 時

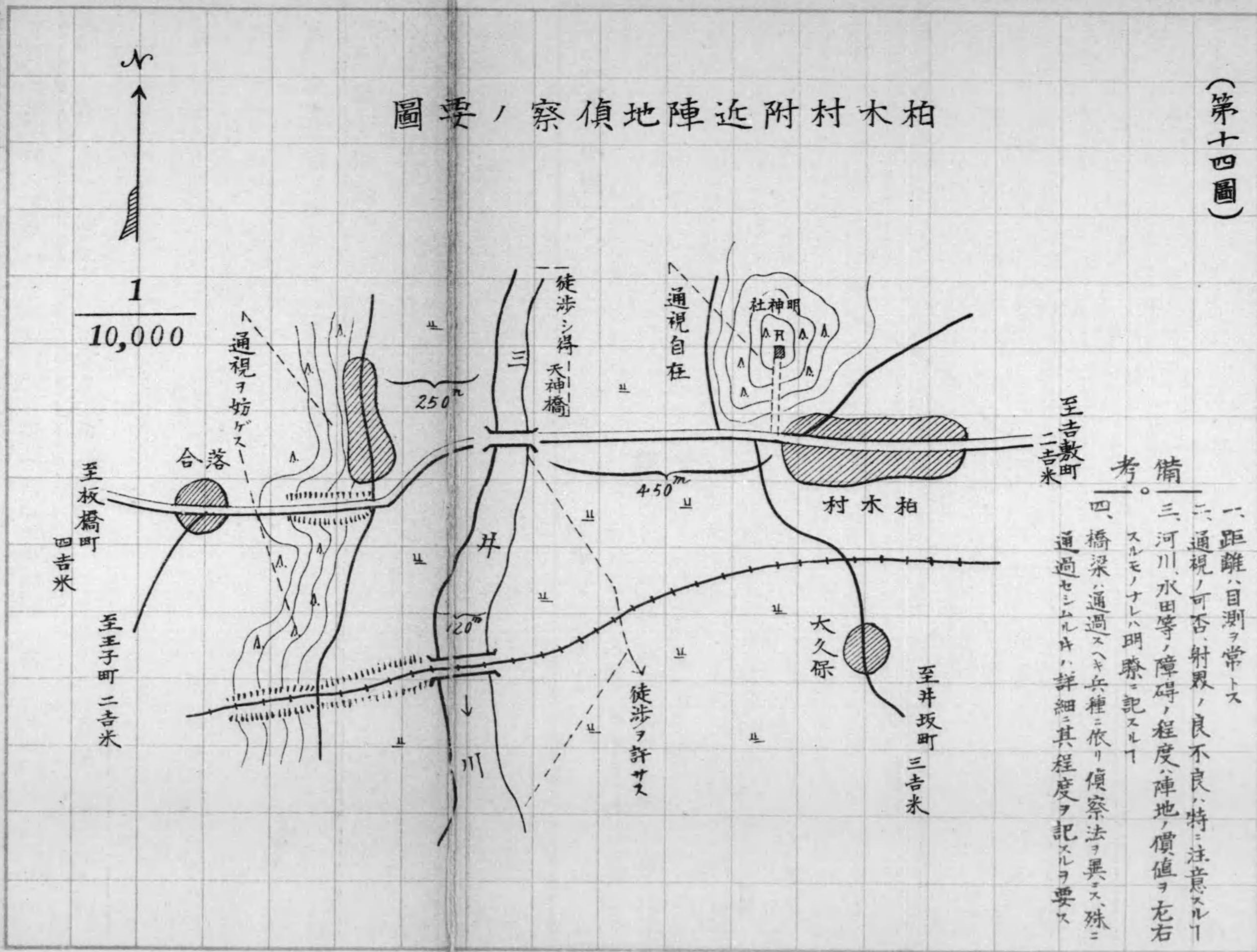
分 分

發 地簡發

於

# 柏木村附近陣地偵察要圖

(第十四圖)



## 備考

- 一、距離ハ目測ヲ常トス
- 二、通視ノ可否、射界ノ良不良ハ特ニ注意スル
- 三、河川、水田等ノ障碍ノ程度、陣地ノ價値ヲ左右スルモノナレハ明瞭ニ記スル
- 四、橋梁ハ通過スヘキ兵種ニ依リ偵察法ヲ異ニス、殊ニ通過セシムルハ詳細ニ其程度ヲ記スルヲ要ス



受簡者	發	月	日	時	分
	着	月	日	時	分
發簡者	發地	於			
	發者				

殿

研究事項

- 一、研究ノ目的。陣地ヲ占メントスルヤ通常其前方ニ一部隊ヲ出シ以テ我カ陣地占領ヲ掩護セシム敵ニ近キトキハ之カ爲少數ノ歩兵部隊ヲ以テ一時ノ抵抗ヲ爲サシムルヲ要スルコトアリ(歩兵操典第二部第五十七)
- 二、實施要領ハ掩護斥候ト略ホ同一ノ要領ニ準ス

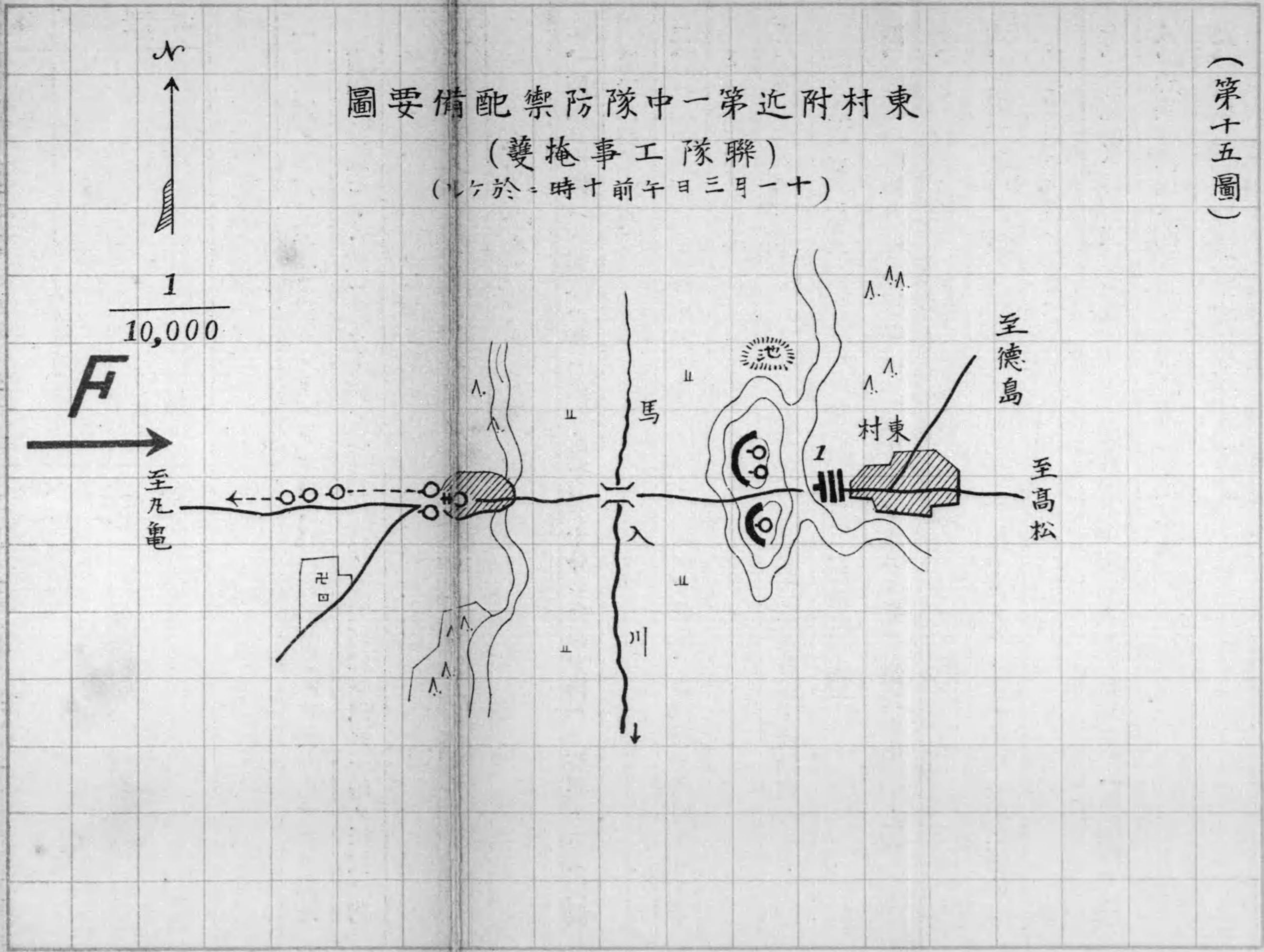
小部隊ノ防禦研究

- 一、陣地ヲ占領スル部隊ハ特ニ火器ノ効力ヲ十分ニ發揚シ得ルヲ肝要トス(操典第二部第五十六)
- 二、陣地ハ兵力ニ適合セサルヘカラス而シテ高地、村落、森林等ヲ利用スルヲ可トス(第二部第五十六)
- 三、陣地前ノ地形開豁ニシテ遠キ視界ヲ有シ且其内部及背後ノ交通自在ニシテ敵眼ヲ遮蔽シ其翼ヲ堅固ナル支撐點ニ托ス(第二部第五十六)
- 四、陣地ハ時間ノ許ス限リ堅固ニ防禦工事ヲ施スヲ要ス(第二部第六十一)
- 五、各地區前ノ死角ハ比隣地區互ニ側防シ得セシムルヲ要ス(右同)
- 六、防禦工事ハ逐次ニ抵抗シ得ル如ク且ツ數線ニ設クルコトナク唯一個ノ陣地ヲ最モ堅固ニスヘシ(第二部第六十二)
- 七、陣地特ニ防禦工事ハ成ベク永ク敵ニ對シテ陰匿スルヲ要ス(第二部第六十三)
- 八、守兵ヲ陣地ニ配置スル時機(第二部第六十四)
- 九、射擊開始ノ時機(第二部第六十九)

(第十五圖)

發 十一月一日午後七時十分  
 着 月 日 午 時 分

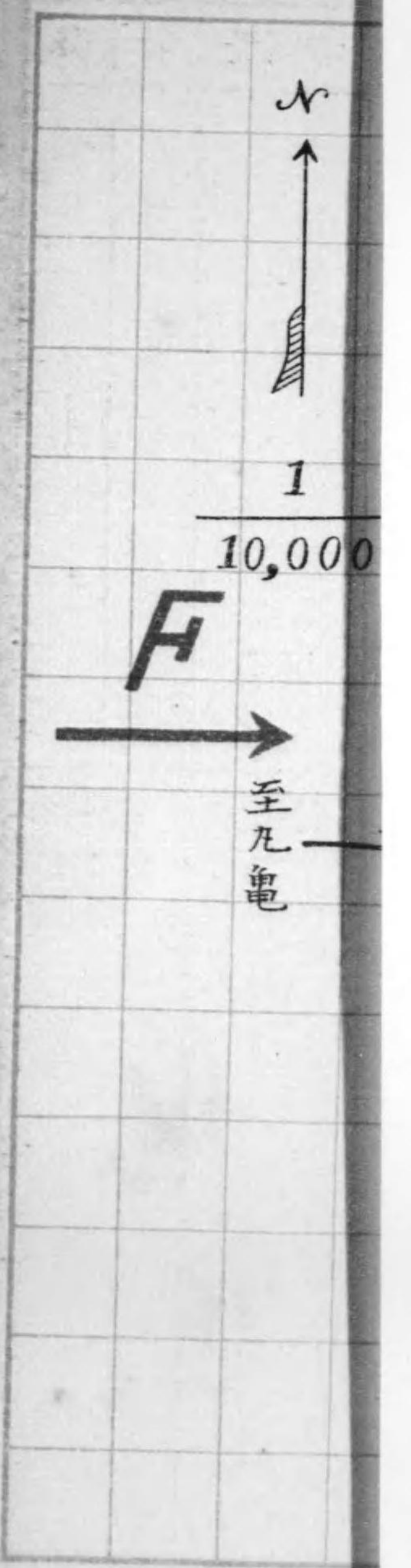
地簡發  
 於 西 向 山



東村附近第一隊防禦配要圖  
 (聯隊工事掩護)  
 (十一月三日午前十時於此)

(第十五圖)





發	十一月一日午後七時十分	發簡地	於西向山
着	月 日 午 時 分	發簡者	某前哨第一中隊長
受簡者	某前哨司令官殿		

研究事項 其一

- 一、任務。(要務令、百四十三)
- 二、配置法。敵情、地形殊ニ道路網ノ形狀ニ從フモノトス(要、百五十七)
- 三、前哨中隊ノ番號ハ個有中隊ノ番號ヲ稱フルモノトス(要、百五十七)
- 四、敵襲ニ對シ取ルヘキ處置ヲ決定シ所要ノ工事ヲナス(要、百五十八)
- 五、前哨中隊長ハ成ルヘク速ニ其取リタル配置要スレハ夜間ニ至リ變更スヘキ配置ノ豫定ヲ單簡ナル要圖トナシ之ニ必要ナル説明ヲ附シテ前哨司令官ニ報告ス(要、百五十九)
- 六、諸勤務、戰備ノ度ヲ決定ス(要、百六十)
- 七、銃前哨ニ關スル件(要、百六十)

研究事項 其二

- 一、小哨ノ任務。(要、百六十二)
- 二、小哨ノ兵力並ニ長。(要、百六十三)
- 右第一小哨ハ下士ヲ長トスル小哨ノ一例ナリ、
- 三、步哨ノ配置法。(要、百六十五、百六十八、百六十九)

(第十六圖)

簡受 着 發

月 月

日 日  
午 午

時 時

分 分

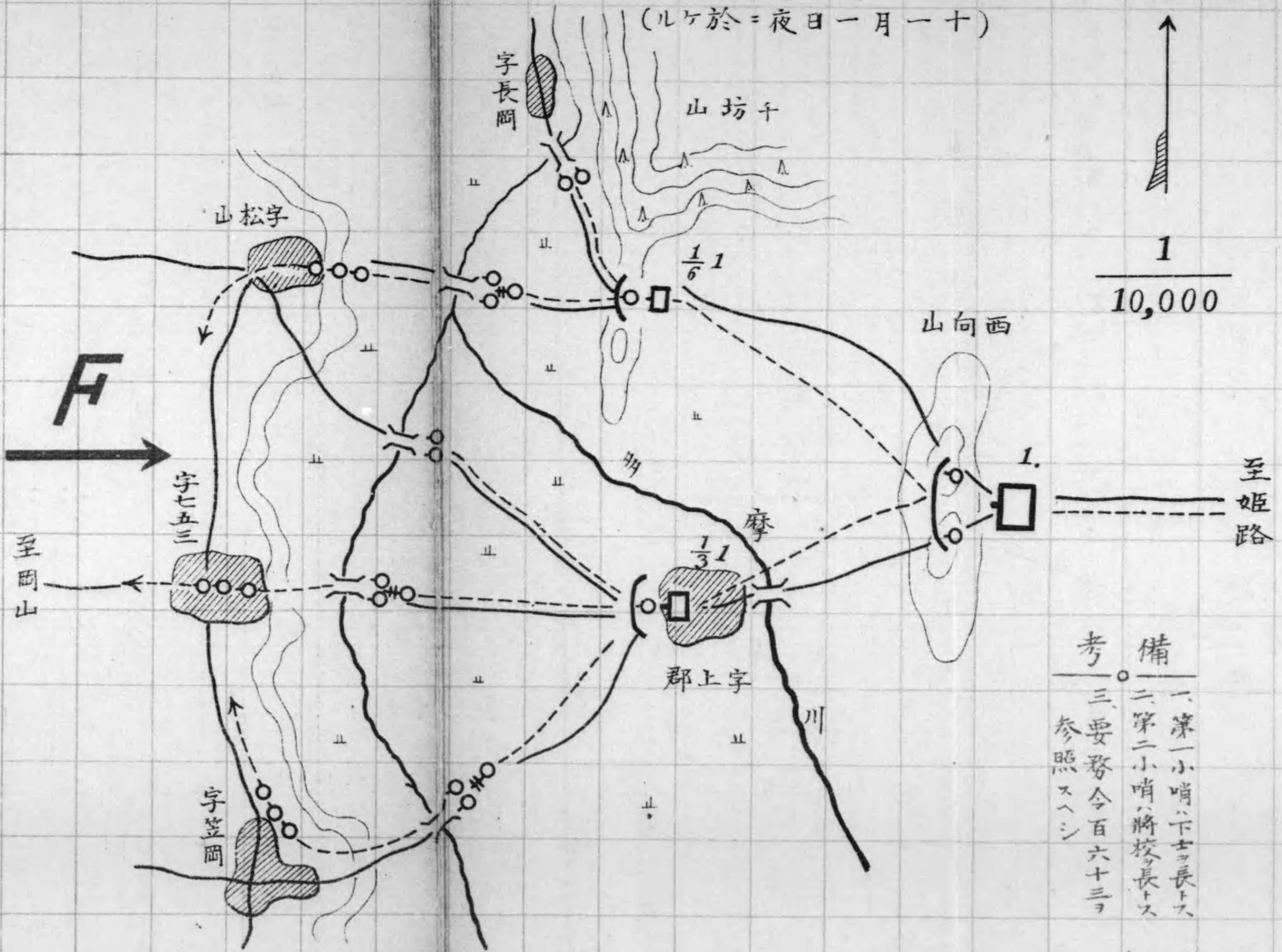
簡發 地簡發

於

及

# 圖要布配隊中一第哨前近附山向西

(ルケ於=夜日一月一十)



(第十六圖)

考 備

- 一、第一小哨、下吉長トス
- 二、第二小哨、將校ヲ長トス
- 三、要務令百六十三ヲ参照スヘシ

者簡受	發	着	發
	月	月	月
	日	日	日
	時	時	時
	分	分	分
	者簡發	地簡發	於

殿

研究事項

大隊戦闘ノ一般ノ概念ヲ與ヘ併セテ小部隊ノ攻撃要領ヲ覺知セシムルニアリ

一、各中隊ニ大隊ノ攻撃目標ヲ示シ第一線ノ各中隊ヲシテ之ニ向ヒ協同動作セシム(步兵操典第七十七)

二、大隊長ハ前方要スレハ側方ニ斥候ヲ出シ敵情及地形ヲ偵察スルヲ要ス(第七十八)

三、大隊ヲ第一線ノ中隊ト豫備隊トニ區分ス(第七十九)

四、決勝ヲ企圖スル攻撃正面ニ於テ散兵線ノ火力ヲ適當ニ維持セシメント欲セハ戰時人員一中隊ノ爲ニハ其正面ハ概ネ百五十米ヲ標準トス(第七十九)

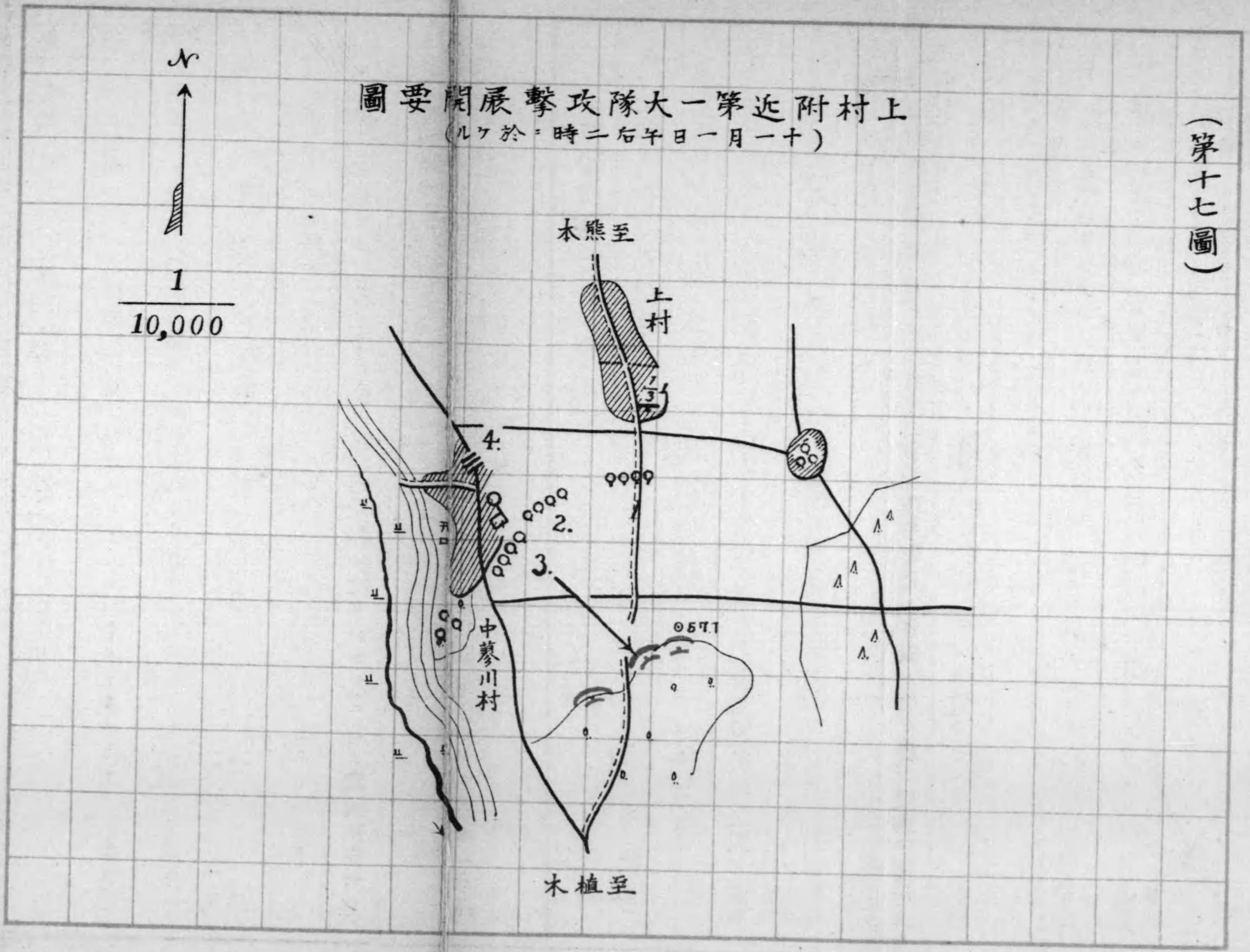
五、各中隊長ハ大隊長ノ意圖ニ基キ地形及敵火ノ効力ニ應シ適當ニ諸制式ヲ應用シ大隊ノ攻撃目標ニ向ヒ専心敵ニ近接スルコトヲ勉メ十分ニ火力ヲ發揚シ終ニ突撃ヲ實施スルモノトス(第八十二)

六、敵兵動搖ノ色アルトキハ前線ニアル各中隊長ハ好機ニ投シ自ラ突撃ヲ決行スルコトニ躊躇スヘカラス敵線ノ一部ト雖モ我猛烈ナル突撃ヲ受クルトキハ全線、爲メニ動搖スルモノナリ(第八十八)

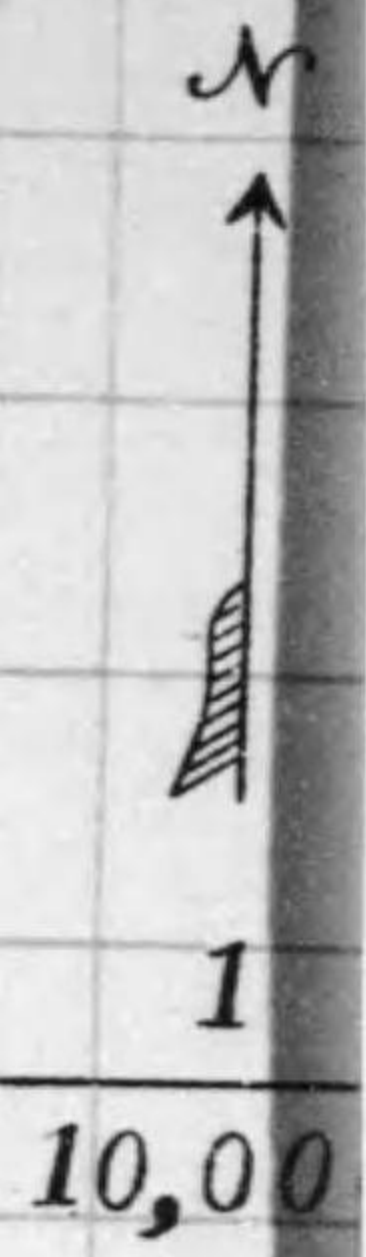
七、頑強ノ敵ニ對シテハ一回ノ突撃能ク功ヲ奏セザルコトアリ此場合ニ在リテハ適當ナル位置ニ蹈ミ止リ更ニ突撃ノ機會ヲ喚起シ百折不撓ノ勇氣ヲ現ハシ飽クマテ突撃ヲ反覆スヘシ(第八十九)

(第十七圖)

者簡受	着	發
	月	月
	日	日
	午	午
	時	時
	分	分
殿		
者簡發	地簡發	
	於	



(第十七圖)



者簡受	發	月	日	時	分
	着	月	日	時	分
者簡發	發	地	於		
	發	者			

研究事項

殿

大隊戰鬪ノ一般ノ概念ヲ與ヘ併セテ小部隊ノ防禦要領ヲ研究セントス

一、通常第一線ノ各中隊ニ占領地域及前地ヲ分割シテ任務ヲ與フルモノトス(第百七十七)

二、防禦戰鬪ノ手段(第二部第五十六)

三、陣地ト地形トノ關係(第二部第五十六)

四、陣地構成ノ要領(第二部第六十一、六十二)

五、陣地ノ蔭匿(第二部第六十三)

六、守兵ヲ陣地ニ配置スル時機(第二部第六十四)

七、射擊開始ノ時機(第二部第六十九)

八、防禦戰鬪ノ經過(第二部第七十)

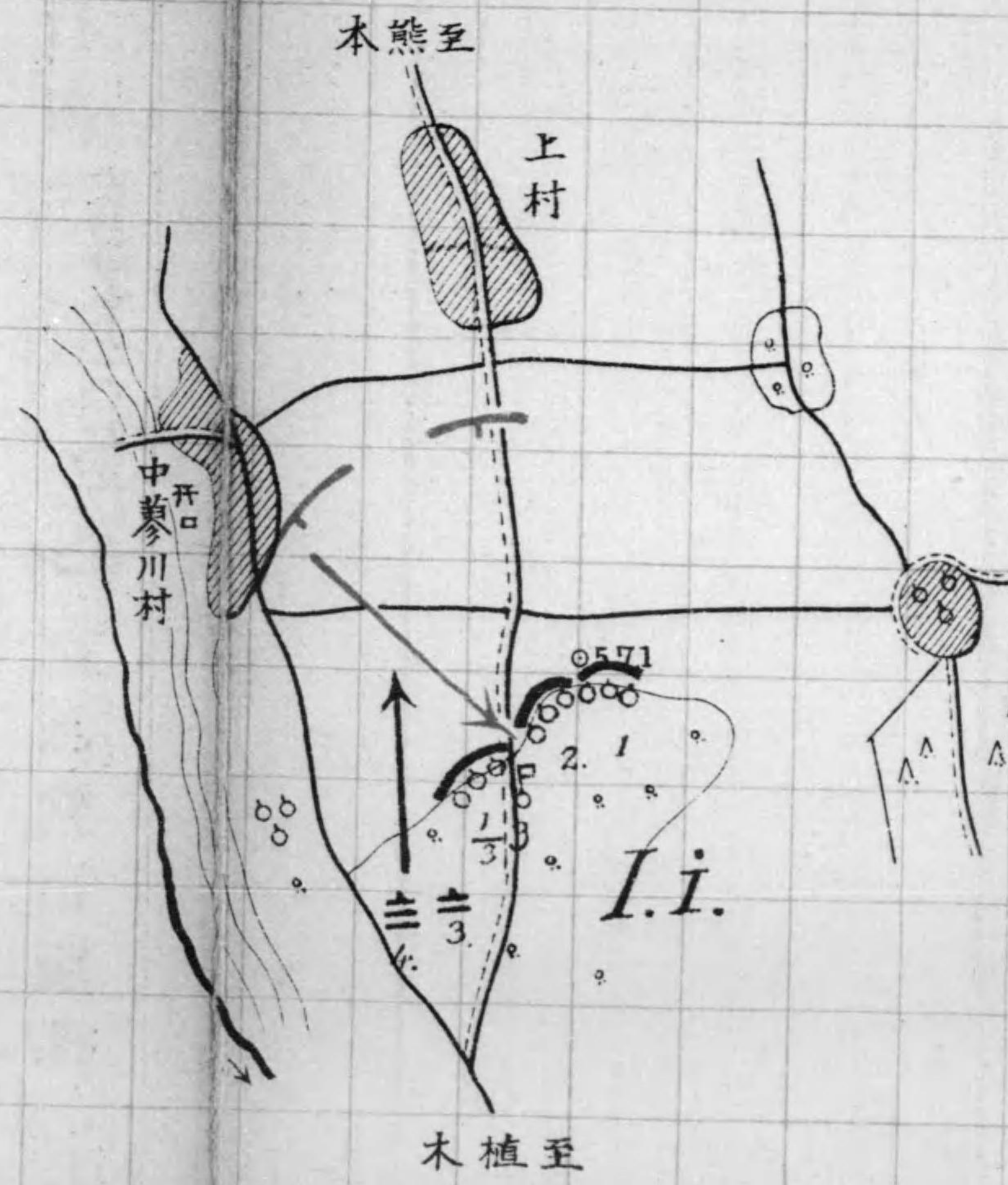
九、攻勢ニ轉スル(突出)時機(第二部第七十一、第七十二)

十、防支正面ニ在ル大隊敵ノ突擊ヲ受クルニ於イテハ最モ沈著シテ之ヲ射擊シ敵ノ萎靡スルニ乘シ決然逆襲スヘシ敵兵若シ我陣地ニ突入セバ大隊長以下滿身ノ勇ヲ奮ヒテ敵ト格鬪シ之ヲ殲滅スルヲ要ス(第百九十一)

(第十八圖)

圖要備配禦防隊大一第近附村上

(ルヶ於 = 時九前午日二月一十)



大正四年六月十五日印刷

大正四年六月二五日發行

分隊長之要圖

正價金參拾錢

複不製許

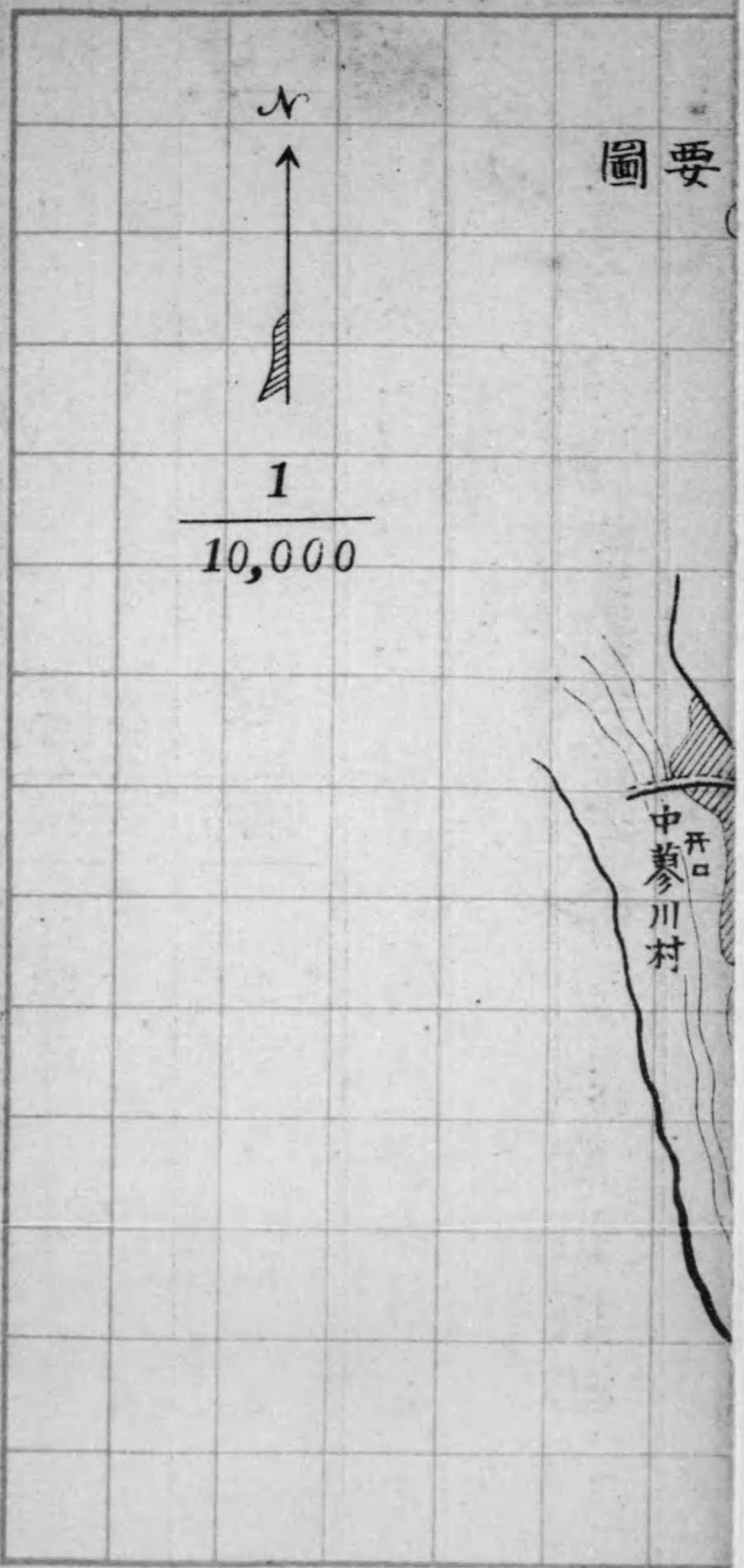
著作者 軍事研究會

印發 刷行者兼 高倉嘉夫

東京市神田區今川小路二丁目十四番地

東京市神田區仲藏町十番也

要圖



大正四年六月十五日印刷

大正四年六月二十五日發行

分隊長之要圖

正價金參拾錢

著者 軍事研究會

東京市神田區今川小路二丁目十四番地

發行者兼 高倉嘉夫

東京市神田區仲猿樂町十番地

印刷所 忠誠堂印刷部

不許複製

發行所

東京市神田區今川小路  
電話本局四九六六番  
振替東京二〇四三一番

忠誠堂出版部

37  
422



7.12.16

東京忠誠堂發行

37  
422

終

